連歌[illegible]

特別
イ4
696
130

696
130

内閣文庫

目録

文化元甲子年日記 一件
一 詔一言 板垣
一 塩尾蕃夷之話
一 柳田政談聞書
一 東北風説
一 西遊譚 板垣
一 近藤子記 寺島
一 自彊説 寺島 板垣 傳
一 定西琉球 板垣
一 ヤンパンニルス
一 兵法雑録

内閣文庫

ヰロシヤ一件

壽藏

十二小林船長宮へ入津ス一件

文化元甲子年八月七日ノ出来事

丑ノ冬ヽ成瀬因幡守家来

筏源左エ門書写シ之ヲ持来

外ニ

長崎奇法屋ヲ林ス

今ロシヤ船長崎ニ碇泊ス

ロシヤ船長崎ニ碇泊ス

一ロシヤ船長崎ニ碇泊一ヶ月ニ成ル

デーデ子ルクシ口コフベンハーゲ カナリヤ諸島南アメリカ列シ口ブラシ

リヤ国ヨリ南海ヲ周リ一層数一千八百四年九月三日南ヨリ北ヘ

カムシカツトカヘリ同九月十日境明日出船仕 今日迄三十一日滞

滞ニ付別紙ニ伝ル右ニ船ヲ離シ御番所ニ届ケ申ス船番所

一今船出帆シ後人海ニ落ル後ロシヤ国ヨリ江戸ヘ

書簡差出ス右ニ書簡ハ成ル程中出ス右書簡中

出ス後ロシヤ国ヨリ江戸表ヘ使節ヲ差遣ス

阿蘭陀仕出来候阿蘭陀船差渡候處國王より合之
諸事相伺候外方之者阿蘭陀仕候中出候儀も有之
大切ニ存候 先年此節渡来仕候得共御礼申上度
紅毛使節并献上江府拝礼相願候得共 御当國之
御國法を以御受難成段被仰聞候

一 唐船之外者人数八拾四人 内四拾弐人 阿蘭陀人 日本人[illegible]
乗組之者共 右日本人之儀ハ十二年以前漂流之者ニ而御國之
漂流仕候ニ付右之者共送届
右之船ハ十四五人乗 首長之者ニ而御座候

右之趣かぴたん申聞候ニ付 和解仕差上申候以上

子
九月七日

かぴたん
[illegible]んで[illegible]

通詞目付
大小通詞 中

江府江御注進ニ相成候 和解 右者 出島 [illegible] 通之

一 壱通 和文 [illegible] 通 [illegible]

一 壱通 別紙文字 [illegible]

右箱ニ入 [illegible] 念 [illegible]

恭敬而

大日本国王殿下に　ヲランダ国王より進呈する書に

載ゐる祈る

貴国

御代々繁栄　御代々繁昌御代謹而祝賀仕候　我祖国王を

始として国王死去之子孫をも一二の　其王家之名を受て二十余年

此二代まて我国を張　其来河英吉利　フランス国イキリ

や国エゲレス国と我国并国之戦争をはしめし我

国に対し和睦以て国を静め諸邦に其戦を除し騒乱也の諸

邦も右年に及し然る

本国ハ従来本邦ニ而も繁昌なりしか以下に属国に成

不遠是迄仕候通し候由ニ而向後ニ而も候様に仕候

を結ひ和親之御事ニ有之候

貴国　御仁徳之儀ハ　世界ニ普く相聞候事ニ而　本国

本国之船近年　貴国へ漂流仕候者共へ

御慈悲を以御取計被下候儀　自国之船破仕候者共

御取扱之儀ハ　御手厚之御国之取計

本国之義者古ゟ長崎之津ニ而御免之御朱印を下し給り
感謝無極ニ候、以後弥右礼謝之為[illegible]般候節[illegible]
為依頼
本国之高位頭領之高丈高之座を守中懇願候依而
大日本国王殿下に礼状并[illegible]献上物を捧候
我[illegible]殿之[illegible]か[illegible]を[illegible]之門[illegible]
海[illegible]

本国之[illegible]御年 御国法[illegible]
[illegible]
一 先年[illegible]漂流せし
本国之人[illegible]
一 [illegible]年
御両国を[illegible]一書[illegible]
[illegible]御用[illegible]
[illegible]我国

[illegible]カニテヤツク（北アメリカ日本ノ北ノ）アレウテキユス（ロムシロワテカ北アメリカノ日ノ在リ）ニユエレス、
カムシロワテカの辺ニ在り　[illegible]
国ニ中ノ也　[illegible]
[illegible]

本国人[illegible]国[illegible]源院[illegible]
[illegible]
[illegible]国[illegible]

[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
本国[illegible]
[illegible]
[illegible]

雜貢

一　[illegible]
一　大[illegible]
一　[illegible]
一　[illegible]
一　[illegible]

[illegible]

王府ベートルベルクヨリ於て郡役所へ

三年六月三十日　オロシヤ國王

[illegible]

右オロシヤ國王より捧げ書を以て意志申郡東翔

仕に使節を以て[illegible]の門ニヤ[illegible]辭仕[illegible]

子九月十日

通知目録
大小無別

一南今國王ヨリ[illegible]天北令運ぶけひてや

剣奉モスコビヤより度りオロシヤ國ヘ一王ヨリ令

領ヒ[illegible]國ヘ[illegible]

モスコビヤ　キーフ
ウラディミル　ノブゴロット
カサン　アストラカン
シベリーニ　メウリセン
ケルソ子ース　ブレスコウ
ウナルリイニイ
ヒーストラント

ボドリ
スモレンス
リーフラント
セミカリエン
コレリエン
ウイーアツトカ
ユゴリエン
ノヲコロット
テアルニゴラ
ボロツカ
ヤロスラフ
ウードルスカ
コンテイスカ
メスティラフ
カルタリニエン
カバルテイニスラント

ゴリセン
スレスウイギホルステイン
デイトマルセン
エウエリエン

右〻外小國多數多〻後ニ為ス〻あ記事ハ

ナルヂビユルク

ペルシヤ使節〻後日ノ記ニヤ口碑ノ如ク仕ル上ヤ堂

子九月十日

ナロシヤ國より日本近〻道法

ナロシヤ國府名　通国国名
デイヲマルカ　大小通国
デーヲマルカ名
エニゲラント　六百里
エニゲラント　六百里

ロンゲラントカ　二千里
カナリヤ島カ
カナリヤ島カ　三千里
ブラシリヤカ
ブラシリヤカ　四千里
マルゲサ湾カ
マルゲサ島カ　三千里
カムシカツテカカ
カムシカツテカカ　千里
日本カ
一ヲロシヤ船形図紙　一万四千五百里
一石火矢拵六挺　西洋武器数多有之
一鉄砲五百挺　二十匁玉
一ヲロシヤ人　衣服ハ紅毛人服ニ似寄リ髪長ク光腰ニ
垂髪ニテ結ヒ　ヲロシヤ流ニ光ル帽子ハ紅毛ハ
帽子ニ似形ハ異リ　絵図ニ
一鉄砲五百人　生国仙台領
廿六歳　此度ヲロシヤ船ニ乗組人数拾人ニ内三人ハ
残リ拾人　寛政六年十一月廿七日　寛政七年
六月十日　此ヲロシヤ船ニ拾人　内四人帰国

残り九人之者於彼地病氣或は不慮之死致候者共

國都之御成合不申候ニ付御暇之儀願ニ

此節連渡り候漂流人

幸助　年四十[illegible]

長之助　同十三才

徳之助　同十[illegible]

清太夫　年[illegible]

右四人之者共日本江帰國仕候而何之國也より

浮領之不申之取之候

一 日本江仕立候船ニ而罷帰申候而渡海之節者漂流致様ニ

仕立有之候

一 日本江仕立候様ニ而候ニ付一生

一 二百匁之銀子被下候　右之通被下候

一 金錢

沙汰

右之者共人々之身ニ而

一 今度之御伊勢之湯川破之人浦賀之浦次右衛門阿家之ニ入候

[illegible]

但御撰定[illegible]ハ[illegible]七人御[illegible]
[illegible]
大[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 [illegible]

一 河[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 大鎧 大将領地 [illegible]

裏物之御
袴

一話一言抄

蝦夷之風俗

南部老人

[illegible]山師曰四国乃至[illegible]搬[illegible]り[illegible]津軽外ヶ浜より渡る[illegible]順流[illegible]七里海路之瀬勢甚[illegible]急難[illegible]渡り船附[illegible]震没[illegible]故[illegible]風[illegible]行[illegible]木[illegible]

烈風[illegible]急難[illegible]

時[illegible]

[illegible]外ヶ浜津軽外ヶ浜三百四十[illegible]里松[illegible]大山[illegible]

北海[illegible]

[illegible]家多[illegible]破風作[illegible]

[illegible]拾里[illegible]金[illegible]定[illegible]

立穀[illegible]

事なり 独活河蕨蔬を食こと陸奥に常よりは唯り
自國のみにかぎりはいかなる故にか紙幣を遣ひのみ
住居して渡世なる故に風俗も異陸の人
とは違ひたる体なり 三面は海にして陸の
僅数ケ所渡船大凡数千艘あり矣課の城主
出入一艘の税賦金弐朱と云 是は松前の対入
ところ米穀に於て津軽南部の海運しく
絶国となる 陸奥南部の郡は松前の交易
ひらけ又金銀を出す事なり 松前の地
陸地にて山嶮なる蒼海を隔て大国山より
参り一里半にして松前の地 村そ
無数にあり 春彼岸前四五日より四月八日迄を
限りとして三三五五 ヶ敷の

子と成る又秋八月より九月まで昆布をとり
て万國に出し出運上を以て対税とする也

田國の名所 陸奥外ヶ浜より海上七里北へ渡れば松前の西へ三十
里大田山上り一里然る石五里白嶽上り一里半空
より弘像の新如仏行二丈二尺五寸の阿弥陀
ほとけ石にも日の光りふ映るはは五色にて見る

白嶽之図

東北松前より五里カヤ村へ渡り 割木対仏石村 憲賛嶽 松前人十九里南部の向り 松
ムニヘ二ツ村へ 十里
芳々の東方へ上サニ上リ上リ ナリ 鳴動
蝦夷の方上言

日本人のことヤモ婦人の男ヲアセリ女ヲメノコシ
又ヲアシヤシフ母ヲハハ妻ヲイウホ子供
ヲヘカテウヤヲアベ水ヲワワカ酒ヲツレ湯ヲシフ茶ヲ
イタキ茶碗ヲシヤマイタミ米ヲアマイ酒ヲアマイ
煙草ヲタハ煙管ヲセレヒ袋ヲシヤモノカラ女儀
の絹ヲアワシ
アワシヲアワ細工ヲ氷ヲ弾くゆく涙久多く
八國は乃ちみなを芝ヲ暮ヲシナノ根といふ
似たり
実語好通りの鬼ヲ犯すとあり本槍ヲ以て是
とうちあり芝ワヲ手ヲ上ケテ云

和霜月或方ヨリ先年蠟燭ヘ流シテ義小頭の人
陸奥の国八幡宮彼地の三度砂金ヲ初ル俗ハ黄色真黄ヲ
ヨリ海中ヲ潜ヒ出ル砂石ヲ内ヲ見ル人ヲ見ルヲ
つぶ人ヲ見ル砂金ヲハイウビ金ヲ
ヒヤ上蠟燭のハイカセ
松前の主ヲ今ハ上下の工ヲ
男ヲ見ヲ女ヲ
唐草の新
物ヲ家ヲ
用ヲ家ヲ
ヲ
源義経の霊ヲ
つぶ

旅やかりし主ら[illegible]かしこく呉客各々[illegible]小刀を差し一様なし
衣裳の[illegible]薩摩[illegible]甚異潮を渡て此土の識者蠻夷の風俗
他ニ異ナル[illegible]是ヲ方言多く[illegible]
食ス何ヲも汁ナリ[illegible]水ヲ[illegible]
夷人髪長ク[illegible]酒呑ム時酒[illegible]七八寸の[illegible]表ハ銀裏
[illegible]下[illegible]の[illegible]木の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
魚ハ[illegible]多し[illegible]
[illegible]下蝦夷の[illegible]二百[illegible]北ハ
東韃[illegible]山丹[illegible]韃[illegible]
蝦夷人[illegible]
甚[illegible]あり
右塩[illegible]

予有馬ノ温泉ニ浴シテ歸路
皇都ニ出テ薩摩ノ藩士肝付七之丞ト伴ヒ兼武ト云者ニ遇フ
下等ノ士ノ身ニシテ今茲三十二歳十年前頗テ四方ニ漫遊ス
天才有其言句ニ拘泥セス専ラ經世ニ志厚ク野作佐
渡ハ云ニ及ハス渡海シテ地理ヲ究メ私ニ海防ノ策ヲ建ツ著ス
所ノ經濟録海防手引草東北風談佐渡海防策アリ
頗ル卓見ナリ對話日淺クシテ盡スヿ能ハサレ𪜈聊聞所ヲ記シ
鹿兒島ノ一班ヲ示スト云

西園主人柳田政矩

[seal]

問 当国ニハ三教ナリト云コトアリテ他国ノ人入ルヲ厳禁セラルト承ルハ如何
答 三教ト云コト世間ニ唱ヘ来レトモ当国ニ限リ入ルヲ禁セスト云国ニ士
風有 他国ノ者入乱ルレハ自国ノ風儀損ナキテ数ニハ各自後年弱キ方ヲ
移ルモ去レトモ古来ヨリ士風ヲ失ハサルヲ起シテ他国者ヲ禁セラル
是依ニ異国モ薩摩ノ風土ヲ離サス故ニ門徒ノ僧ヲ
間者ニ遣ハシタル由ヲ聞テ他ヲ禁セラル故ニ世ニ三教ノ前ニ建タル
流ルヲ禁スヘキ 且義ヲ尊ニ大建タル故ニ流教ニ倣初ヲ禁ス 犯スモ
必死ヲ賜ハル定メナレハニヤ 又テ禁セシ犯ス者 他国ヨリ少ク且入ヲ下ニ
○主タル者 千貫ナラサレハ妻ヲ娶ラス 女ニ交ハル事ヲ禁シテ若犯スモノハ
生涯入会リヲ許サス 但シ男色ハ別ナリ云 ○男色トテモ決シテ私カニ
スルコトヲ許サス 若親其事ノ場式ニ男ヲ二思ヲ掛レハ表向其ノ家ニ
行キ父兄ニ面会シ 親戚ノ許ニナリ夜々存スル許サレヤト中込 親
当人ノ意ヲ聞テ約スルコト 強キ契ヲ結ヒ上ハ対ノ衣服ヲ着シ

其術道場ヲ結ヒテ人ニ教ヘ 所ニ同道シ早リ人ノ飛ヒ乗ルニ 是亦久ノ
由ハ人ル 今ニ絶ヘス 然トモ近年ニハ此事見ヘスノ 事ニ付及傷ニ
○主タル者高貴ノ哥ヲ唄ヘハ気分ヲ挫ケリトテ伍タルモ身ヲ高貴ナル士ノ
之ヲ歌フ又人ハ殺スモ敵トテ 犯スモノ 至テ稀ナリト云 其士ノ歌
肥後ノ加藤ヲ来ル時ハ塩硝火薬ニ火縄ヲ添テ大デモ来ラ刀ヲ研ケ
是ハ関ケ原ノ役ニ清正薩摩ヲ攻ントセシ時ノ歌ナリ
新納老人カ唄ヒシト云
霧島ノ一ノ峰ニ勝カラスハ日向一国ニ薩摩ノ領
其他右ニ準スル歌ノ文句多シ 琵琶ヲ弾シ高調ニ唄フ或ハ三味線ヲモ弄ブ
由ナレトモ他国ノ人聞テハ同調子ニモ分ラスト云
○桜島ハ先年山焼ヲシテ七八日ノ間近キ日ニ灰降ルコト三寸余モアリ 是カ為ニ
目病多シ 何某トテ老士今ニ流行スルテリ 其ノ筆ヲ以テ出テ土地ヲ
ト云 是ハ九州士道ニモ泣キ 今ニ於テ硫黄ノ煙絶ヘスト云
問 薩州ノ蔵物トテ 黒砂糖ヲ大坂ヘ荷物ニ出サレ 天下ノ相場狂フ程ノ事抔

第一ノ長崎ハ有名ノ金ノ八幡モノ[バハン]トカニモノモ者如何　蓋シ南ハ海ノ四ノ
樂ニ所ナレバ故ニ人ノ出入ス重罪ニ處ス又海四ノ第一ノ多キ所ハ琉球
第二ニ長崎ハ地ノ故海ノ情ヲ探ル者ノ
第三ニ其ハ大坂ニ出ル物ハ長崎ノ産物ノ
長崎物ノ産ハ大坂ニ出ル物ハ其價却テ
公ニ三ノ中ニ有リテ薩ノ藏物長崎ノ産ハ
公金下リ近頃ハ肥前ニ細工ヲ十ヒ
年ニ一度金ヲ出ス
○今春桜大黄二斤ニ百文甚ダ高ク
九文ヲ家中ノ者ハ医師ノ
○家老ノ下僕ノ願ヒニ
價ニ準ジテ

隨分ニ流ル　ハエドヂヤリヲ食ヒナシトヒ
○蝋燭ノ油ハ菜ノ種ニテ
巻ニ形ヲ文ニ元和中ニ
モ有リ夫故邑ニ
○婦人ノ盛服國ノ
老ノ組振袖ノ
○薩ノ八藩天下ニ
在勤一ケ年ノ費用
砂糖ヲ絞ル
故ニ君ノ外決
油紙ニ
○島ノ牧ニ
鐵ノ

ハ海鼠多キカ故ナリト
アサヒ
直ヒトカハリニ
鋳物ヲナス
婦人ノ衣服ハ
振袖ハ
キド駅ニ
右ノ
ハ君ノ
砂糖ハ
文ニ
ハリ宜敷
御家中ノ顔ノ
馬形ヲ

大振ノ合戦ノ時身崩スハ此流ヲナラサレハ薩摩ノ他ニ出ル者ヲテ新大将流ノモ誓言ヲ以ル人由

○当藩ハ英雄ニテ近来変所ニ迫ル是ヲ防ク策火術ニテ世ハ耳ヲ驚カセ多カラスト思ヒ今ヨリ九年前兵法改革ノ新令出シ国者ヨリ下士ニ至ル迄必ス小銃ヲ手ヘシ其外ハ槍ヲ以テ他ノ藩邸ヲ急ク下ニ那ス弓馬剣槍ハ必可用処アリ且砲技モ流ヲ品ニテハ後急ノ時ニ合浪義ノ殺ヲ以ル是ニ子孫ヲ起ス者ハ不残切腹ス可ヘシト是ニ依テ近来軍令漸ク厳ニ成リ三度ニ違背者ハ野戦ノ始西洋流ニ作リ三度新砲ヲ拵出来ル其余猶直来ノ筒ヲ用ヒ苟モ用ニ充ル人由ナリ

○何ノカニ海岸ニ大艦通行其便ル所有ル地ヲ相對ニテ防禦ス鳴山省其間北所ニ見ル所深サ四五尋清国商船風ノ様ニテ此所ヲ通ル長崎ニ来ル者ハ必ス此島ニ天狗住

所ヲ拵枝葉ヲ拾ヒ集リ有リテ五倍深ノ恭懼ス此ニ防禦ナシ此ノ藩ノ守ル其要ヲ一日者ニ此地ニ五倍ノ弾見ル見セ酒ト鶴リテ後仰出ル人ハ下ニモ事ヲ聞及ヒ又ニ近来変動皇国ニ迫ル五一此所ニ到ル時ハ天筒ヲ以テ歩ノ二此ハ皇国ヲ破ル遂ニ大事大患ヲ生ス然ルトハ大百年来ノ后天ノ名折ヒ特ニ

天子ヲ始メ将軍家ハ不忠此上ナシ此頃天狗頼ミ奢致セ九ノ来ル其ハ不ヲ斬リ新ヲ拵ヒ外ヲ見ル仍其方共ニ天狗後拵ノ警戒ヲ見セ者只今大筒ヲ打ル人魂ヲ鎮ノ為ニ弾見セヨトテ

おこべこ ヤキ王ノ等拵ヒ火九ヲ島山ニ事セラレ何ノ事リモ力ガ表始ニ成ル依テ陳カニ砲基ヲモ鋳カセ善キノ士ニ者ヲモ移セ名リトリ

○公ヲ願ハシニ大艦九艘ヲト造リ成セリ蒸気船ノ様ニ仍追ヒ出来ル家中番輪重量数ヲ十二番ニ十二番ノ草鞋ハ必ス耕作ス中拵ヒ作ラサルニハ必ス重キ沙汰ヲ及ハル人数戒下青物ヲ屋甚

稀ニメ只早家ノ用ヲ弁ズル迄ニ
○薩州鹿島城下薩士六千家所家ハ三千餘四千三足ラズカリ如故ニ
櫛上ニ在テ高高ニ下スト云ヘ共面目甚ク新習一百二都場出薩士
三百家ヲ起ス中ノ地ヲ仍テ百ヲ外ニ小都場七八ヲモ凡由就
中高国ヲ都場ハ薩ノ国閑外ニ有薩士ヲ家ヲトアリトモ
又名ノ称ヲ有スルモノ下士ノ極ニシテ乃チ国見以上ノ大方都場ニ
士著ノ者又九地モ廣ケレハ存外ノ外無モ家ノ子モ野人アリ
座下位ノ士ハ五百石以下島津者都テ力ヲ尽シ
○今ヲ去ル十三年前若ク初ル茂綿服多ハ今ハ
三年間ニハ是迄ノ服者漸ク二年ノ期ヲ踰テ綿服多
サル者ハ例ノ切腹申付ントノ令アリ多ク
○上布ト云モノ調布ハ九曲リノ昔薩ヨリ朝廷ニ奉貢ノ
品ニ是ハ城下ヨリハ三十里モ隔リ名何ト力ヲ田舎ニテ織
出ス今ニ於テコレヲ織ル女火ヲ清メ一室ニ七五三ヲ張テ機カシ
也或時機女ノ農児ヲ出テ甲人ノ調布ヲ著ルヲ見テ深ク窃ニ
ニ落涙セシ由ヲ
公庭ニ達シ近来甲人共調布着服ヲ禁セラルトモ面白キ事ナリ
○土俗家猪猪鹿鶏鴨ノ類ヲ料理スルニ子ヲ子ニ父ヲ招待セス
ト云奥ハ甚ク安價ナレハ百文ノ費用ニテ野山ノ遊ニ家族ヲ
携ヘ醉テ帰ルヘシトモ
○英彦君ハ薩ノ二稀ナル御貨ニテ茶花香等ノ遊ヲ嗜ミ
且性ノ者江ノ諸等節海犯ス者ハ全ク偏部ヨリ出テ
華美ヲ美ヨリ起ルト察セラレ浪華ヨリ入数ヲ遊娼
妓等ヲ召寄可交代サセラレシ由既ニ国老内議アリテ退隠
サセ奉ラントセシカ其後ニテ代ヲ終リ給フ右公地ハ後忍ヲ諸藩
ヲ禁シ娼婦ヲモ遂ヒ返サレタリトモ今モ京畿江ノ諸ノ者一通リ
茶事嗜ハ免サルヘシトモ

○廿年前ノコロヨリ嫡子次男三男ノ輩他国ニ文武修行ニ発ス三年
三ヶ月ニ帰ルヲ期トス追願シテ九ヶ月迄ハ済シ者又物他邦ニ
遊テハ一人前ノ武士ニ又学モ有テ暗嘩口論又猶等ノ短慮有
ミキ貨ヲ正サシ免サズトモ組其追願ハ必帰国ニモ多ク二男大坂江ノ
二男三男等ハ都ヲ遊軍ニ方ト称ス事有時ハ其長スル所ノ才ニテ
夫ニ配シ使ハルヽト

○角ノ諸作事共ニ同心足軽ヲ用ル甲冑刀剣ノ鍛師皆家中ノ
士ニ故製作精練波平氏ハ祖代ヨリ實子相続ニテ代々精巧ト
一薩ヲ二者物取トミナアリ罪人討首ノ節多分三ツ以上首数同人有ル
士落シ切ルヤ何組ニト組ヲ人定数百人所ニ三北ニ死若
待共ソノ胴ニ取ル事イヤカ上ニ者重リ所ノ時組ニノ頭ニ側
来リ上ヨリ次第二人ヲ拂ヒ除テ正ニ胴ニ手ノ掛リ死者ハカリト
ナル中其ノ三ノ甲ニ論ル定ニ等一ノ者一人ハ胴ヲ賜ル者其

裁許分明ナラサレハ頭ノ言トイヘ共承引セス折節ハ頭ノ不覚ニ
ナリ退役スルモアリ扨ノ如ク胴ヲ得ル中其組同意ニ変ニ勝
聞ノ聲ヲ揚テ傷ル川端ニ退キ血ニ乙ノ手ニテ腰兵粮ヲ食ラ
フナリ夫ヨリ多ク斬ス其法胴ヲ窟サセ其上ヘ左右ヨリ棒ヲ
サシ込ニ斬ルヘキ所ノ堀ヲタツイカニモ細キ堀ニ一刀ニ斬誤リ
棒三番ニハ其者ヲ取除ケ人代ル
右ノ如ク殺ク切リ〳〵ニテ終ニハ誤ラスト雖共一刀ヲ限ト
ヲ定ル者ノ遺法ニ面白キ事ナリ
○國所ノ多ク無数上品ナル足ナシ其近傍或ハ日向カ一ノ
産ル物ヲ扱ク國所ト名付他邦ニ取ラス
○家中ニテ子ノ産ヲ試ル二大抵ハ十歳以下ノ内ニ文学場及
講武場ヘ出ス其性ニ合ト不合トアリ鍛冶ヲ是ハ文ヲ是ハ
武ヲ是ハ水練ヲ是ハ火技ヲ是ハ弓馬ヲ是ハ力剣ヲ定テ修行セスル

定ノ由大抵中年ノ藝ハ物ノ用ニ立ス事多シトタヽ二人ノミ

○薩州ノ風俗ノ外私語ヲ無ク故ニ士人ハ別テ大聲ヲ以テ語フ

○薩摩國高リトモ二非サレ共物産他邦ニ行リテ深ク庭トスル故他國ニ出テ奉ラスンモノナシト云フ何樣アリ薩ヲ者ノ小者見聞セサル人ヘサモアラシト私カニ賛ニ汗セリ

東北風俗

○飛作　姫夫宮ハ八百里京洛に隔て南北ハ中ハ二百里ト云ハ北ハ海別ヲ隔ス

西ハ海ヲ隔テ高麗ヲ接シ東ハ海ヲ隔テ蝦夷ヲ離ル凡十里除カ

ラフト島ハ大ノ周迴二百里ト云　松前の城ヲ西海ノ中の三三百里除ハ結城ノ

ヲ隔テ一里除カ島あり鉄ヲ出ス遠ルもの二十ヲ隔テ

ヲ隔テ邪馬ヲ出ス遠ルもの二十ヲ隔テ

凡姫夫の地風俗

ヲ割テ各三年別裏肌於ヲ年ヲ為ル歟ヲ生ル

但熊皮及野猫あり性ヲ人ヲ害ス園ヲ唯猪猴

のミ見勿ム之食物ハ京肉ノミ於ヲ人住ス肉

のヲ見るもの之ヲ以ヲ穀ヲ為ス猪猴

初ク耕種ヲ為ス

正信私曰五穀

而一〻松前人云彼り無事なる故〻に成る故〻に

りん見成りて多りて多り数〻を出り彼〻

不雑穀及の族のみなるものなり仕出さんや或松前〻

数く時ハ内行に曰百一松前共り数〻乃共り彼〻

今は呉海海産の無以く彼すること行そ天下の

正信私云今無を頼りん而一〻水を云の彼り産作業揚家

の時分の如

支流す〻〻を示す迂論〻を得〻

松前家風

海の法論

なるべき及ぶ

彼此白〻

脈を脈なるべき及今出るの時是彼者人搭ロして

後〻りんや独活脈を及孔脈を手刑り西防論所り

今〻ひる四方〻

○海産氏　は産ハ江戸産り一日産り〻〻西蝦極く

ひろ〻〻京南部り接〻〻高作行氏り接す曲折

更猶ハ九十里なるべりん小松前を云り産り三里邦内

平鹿又因良村あり　且三厩青森ハ松前海路にして
買船諸港ニ通ひ商家多し　米穀并諸材木之
集湊之所ニて大ニ富り　而士風狡猾ニ粟利の風あり
以下ハ津軽ニ驕奢ニ而ニ海陸の便ニよって不足ヲ我
来知之也　然三厩平舘青森之ハ松前蝦夷等
近ク　七八里を隔て彼ニ来而蝦夷の松前津軽の間ニ
通ふもの　且ニ多し　我国ニ而ハ海峡を隔ツ　是ハ
のミ　今年正月ゟ四月迄ニ九百余艘也とせり
云々　或ハ海路ニ而川并後採出るのを行とえ々
思得し松前津軽の間ニ天下要衝の所也　日本ハ小
小と雖も　強兵天下長サ千里ニ余而しく　難攘乃
西ハ松前と九州まで　うらうら　薩摩津軽松前長門
二ケ所のうちハ最も強兵而彼ニ至て南ニ至さらしむ

ハし　万も此ニケ所也　彼ニ陸ニ附ハ彼ニ奥ニ至
らも引ニ来ニ極てニ陸ニ至る　戦争ニのミ有ニ及て時ハ必ハ意
接ニ至し三彼ハ外夷の切あり彼事の得失ニ能く知
るへし　今松前津軽の二ケ所ニ命しく海門を固めニ当
らハむるか　今日の急務之且陸奥仙台水戸の洋中ニ
当りての急務　方ニ然ニ南蝦夷ニ接り大港を守る事
鄂羅斯亜墨利加及西洋諸国来舎し　大安日記
之為ニ　土は故ニ此の甘泉の地也　甚之南一　水戸志
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　水戸人見識田
奥羽二国
果しニ強ニ則ち嶽ニ使ニ云ヘ　けんや
○南部氏　郡内甚潤仙台境より津軽境之南北ニ凡
八十里　東西廿里　しく　此領大ニ城奥ニ余ある大系称
仙台並
伊達氏　より　仙台之　十四五里之内ハ稍平坦之此内ニ米穀
ニ産する　僅十万石許　並民ハ小唐雲母田ニ米多ク野深

漸堀稍不毛の形あり然とも馬を牧し耕耘をなすべし
生業となさ人家なし三里に一驛五里に一村を
置其家を集め糧飲の時を得し中を定め差し
置の窮をなし長(?)衣食を制し集をなさしめて驛ハ是
に於いて生長を聚し衆稼之對して速服する
其數を増加なる小屋に或ハ新屋をなさしめ其内乱の起り
安堵あれとも幸に旧邦のもしく長使に活するの人
しからずして或ハ飢えしめなハん然国之編しく
改さる時ハいつまでも由く雅も左ありよし旅を
流岸極るとすと云ふも防禦のあるハ猶く行われ
なく之蜜蝦夷ハ甚だ却とる之藩士の往来するを見聞に
立派なりし其の国窮に御合なる様に思ひ寄られ
英傑の者出て大変革するにあらざれハ夷狄の來降に

ままなるべし

○仙臺　郡内潤し南北廿日程東西二日程平田甚多し
一枚の田或ハ九里なるものあり米を産する甚多し新田
凡三十万石余と云実に諸藩の冠たり而城下蔵
立るより五里ばかりにして松島行十六里ばかりにして石の巻
乃湊あり通漕に便ある故に今津白川廿日にて江戸すれハ
米を運ぶに稍安し　大坂百日より二十日或ハ三十日の舟程なり
而して中海の交易せんとす但し横緩の利あり故に其周囲に
従ふすなりとも凡衣服類諸物品を他郷より仰ぐの利ありとも雲も
亦大いに異せり　而大臣之人ハ小邦城を操して人と自ら
云ふとす雖も今に残なるの事なきも三百年来なるものなるの身
招こらんための爰に割地度して是をなさる之而士
長尤猿猾自役を揮ひ労を逃れに設せしむる

の風俗の人に至迄輝を以く持ことをす其子家臣す
る者次之今の家頭志ありしとあつく継れとも孤立よ
して非常を志を用るものなし而大屋を顧しく
兵ヲ揺動よ初め行ふ之滅亡術なも寄る家す夫
事不慎之威ハ日出中の剽掠しく自害と云る
るの三奇兀破出の人ハ大臣をばかんくの餘ばよく
雑備とまで文武ノ人の信よ某津の人ハ日天下戦争
の勢より出れハ吾家ハ出る仙臺を謀さんとて某
津ハ出かとして之とも推募すべからす万一仙臺と戦
ハく家の中第の魔術とふるる屍かられぬく
海傍ホのるりハ継もことよあすりかく猖出すなし
幸ひよ東隣白河の患なし其更も亦多くらず
る事なし時候余寒とても仙臺を治めし

を篤すろの二本松の方によありれ士気の振作する処ハ諸
め勤せられやく情ハし篤信れ疏よ於て常ようりま若し
むるの

○二本松侯　白川侯よ比ニ盾出甚小且弊之屈屈よ組
し弁ハ為しとへとし難維不自出るり於是
大ようみを奏せり而城下甚異奏なり仍れ城下要害
の出ハ農兵太よ囲めり士兵とも出よ出き充よ防かす
しそ文武を倚るもの国より弊ちし且又小盾
人ともかるし特よ足ハらす偏ものよ足らす

○会津侯　山中よ城を構へ白河所謂国之要害
第一周囲余渦し従ても屋澤不役するの難険
よ出るも水の通すも河と二日の陸行しい兆されハ
兵糧之於屋中大よ不足せり従し士長供給難

に対へ仙臺とハ大に懸隔あり文武も六ツに行ハれ□く
風俗質朴元蔵人の性質□する大概まで手本あるに
風呂敷包に包こ自ら直を□て從（キ）し民の役ぶりに就く
□のも自身の事役民自ら直其の事り□其ノ中
りまく若輩を頼るの士ハ皆会津人に且人と示す家
あり□弱にあふす臣下も九州侯士に比すれハ
大に健捍の風あり器量に何ふに□芸ハ人を
斬るも人の不意を伐り或ハ淫眉よ甚くも刎るを
以ふ風何り名を名に繋く立派よ□を□すと云
極めて忠臣を□り調練に至てハ能熟せり長沼流を以て
婚姻□□を□る事ハ東北の第一と云ふへし□
て中示の役よハたい自己を□る□士の心を□て
甚しく□□も□会□もの□に□ず□□

水戸藩人ハの作りよ似るの所なれとも会津人よ浦
賀の役よ當る若行ハ強る新りよ定さ疾を得りし其役
を免れんとする者とも説得するを知を新多く大に
怒り水戸の人を見る事甚り□れ（ケリ）し藩の実否を糺せしよ
果して定さ強さを捜索果し水戸の姫君を娶
御書迄も其藩の人ハ無家よ（なりてハ）任せふれ帰す且組下
よ千禄の事あらハ我の恥と云ふとせり云く大に家
老に於ありとて□へし今の世に當るへいかさまよ彼
のるまも間くありけく見える□へし

○水戸藩　郡内極て寛し西南ハ僅に四五里よるを
東ハ海に方拾里し□又十五里よるを（イクユ）と云
所に於沼あり合て三十六万石といへとも其實ハ
今年廿六七万石の中之他の□物を出さぬ□大に

[illegible]

[illegible]

[illegible]

不止ことに長崎奉行の配下の役人
長崎奉行は格別大御所様の拙者
年生れ文学は文学の業は格別の大業にて拙者不才不勤
文学は念一日も怠りつゝ如果すること
今十年の功を積むべし人生は百年を積りて
五百年の学問を積の融通自在
変化今人希也苟も長崎奉行
英学は目下人数多し拙者は流派は下ぬ
長崎奉行は別に十年世年の間は学者全くて
彼の学問は行うと雖も切業より渡るべ
多くは彼の学世代人多くの云宋面朋の
後醍醐帝第僧とすりよりて今 水戸光
公二代軍の將たるべし

廟堂の安危は拙者に在りて事を為すは
為すは情ぐ之り今の世代 光圀卿
拙者はいあるべし海防の議論の
うつゝ改て国論不振の契いあるまし余輩
中條と云ふ水戸藩の
風あり小事は過ぎたるすすうる大事の風なる

○徒然草 備後の城を攻たり後代仕事のなり
あるべし支配の雖不振殺猪の風は見へず旦当を
つゝ世情を後代に世代と云へす旦
陸奥国白〜拙別奥とも
当陽の後ことなり忘れ
の後はいとなり初とされいみ年皇七年

十六七里蒲焼の名ありて[illegible]國宝間長田之浦
[illegible]長殿[illegible]て[illegible]元田生るよ後[illegible]奈[illegible]く
笠ハ海岸要路の[illegible]こ蒲焼[illegible]大[illegible]世[illegible]
[illegible]ハ海[illegible]ハ蒲焼[illegible]海路[illegible]且[illegible]ハ[illegible]
[illegible]て[illegible]ハ蒲焼[illegible]ハ[illegible]彼[illegible]
[illegible]ハ彼[illegible]十[illegible]ハ蒲焼[illegible]
[illegible]ハ[illegible]九里[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ

上杉流の軍遣より後こゝろゝ中ハ茶道廣
しと長の私り茶商ゝ人と共ゝ法仙堂
同一ゝ於ゝ茶傳ゝ茶ゝ雑茶廣ありゝ名ゝ今の
利を得るゝ事ゝ出ゝ之ゝ茶ゝ中ゝ長ゝ茶ゝ茶ゝ
出ゝ流ゝ毎年ゝ万ゝ余ゝ仙堂の次ゝ一ゝ士ゝ
皆ゝ茶ゝ格別の能ゝ士ゝ風頗ゝ懸ゝ
文ゝ茶ハ茶ゝ行ゝ流ゝ文ゝ茶ゝ
て茶家ゝ茶ゝ用ゝ茶ゝ
赤ゝ茶ゝ余ゝ初ゝ流ゝ合ゝ
ゝの大ゝ茶ゝ世ゝ茶ゝ風ゝ
ゝ横ゝ不ゝ宜ゝ茶ゝ
金ゝ茶ゝ年ゝ時ゝ彼ゝ
ゝ茶ゝ茶ゝ仙堂ゝ年ゝ

横ゝ茶ゝ中ゝ流ゝ茶ゝ流ゝ
ゝ茶ゝ茶ゝ茶ゝ茶ゝ
ゝ私ゝ茶ゝ横ゝ茶ゝ
茶ゝ流ゝ茶ゝ茶ゝ
十ゝ茶ゝ茶ゝ
流ゝ茶ゝ茶ゝ茶ゝ
ゝ茶ゝ茶ゝ茶ゝ

○酒井氏　寛永の頃ゝ茶ゝ
大山ゝ小ゝ海ゝ沿ゝ郡ゝ
ゝ茶ゝ茶ハ年ゝ
ゝ茶ゝ茶ゝ
茶ゝ茶ゝ茶ゝ一ゝ人ゝ
ゝ茶ゝ茶ゝ茶ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
大り大平の風行り世長長[illegible]
[illegible]
後の世之[illegible]の時後り[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]年[illegible]なり[illegible]雄間[illegible]一人の高
[illegible]を出[illegible]奉[illegible]長[illegible]国より
[illegible]くに来[illegible]あり[illegible]を作[illegible]
来、上使して後[illegible]のるあふ年を作分
[illegible]後[illegible]度より出[illegible]数[illegible]出されくも生
くあるも[illegible]年[illegible]雄[illegible]寄せ[illegible]ば[illegible]来一人の
[illegible]雄[illegible]あ[illegible]す[illegible]間[illegible]の幸あり[illegible]云[illegible]せ
[illegible]流[illegible]年[illegible]古高[illegible]家来[illegible]
て紙後[illegible]に[illegible]附[illegible]上[illegible]家の[illegible]数内[illegible]
義[illegible]耕[illegible]出[illegible]称して出[illegible]せ[illegible]
武[illegible]を出[illegible]伏[illegible]知[illegible]
の事[illegible]今の剣槍仕合[illegible]
[illegible]年[illegible]の[illegible]合戦

用[illegible]たくぬ[illegible]中[illegible]不知[illegible]時[illegible]上[illegible]長[illegible]家[illegible]天
下[illegible]の[illegible]云[illegible]の話[illegible]年[illegible]沙[illegible]七
[illegible]疑[illegible]直[illegible]出[illegible]小[illegible]て[illegible]
[illegible]雇[illegible]又[illegible]
[illegible]蔵[illegible]すの[illegible]紙後[illegible]句[illegible]
[illegible]屋[illegible]孫[illegible]
[illegible]一[illegible]
[illegible]迫[illegible]年[illegible]
[illegible]年[illegible]
[illegible]

○[illegible]海[illegible]家[illegible]紙後[illegible]首
尾[illegible]山中[illegible]年[illegible]三百石[illegible]小[illegible]相[illegible]

乃全根絹の糸にて製する所の[illegible]
人間[illegible]衣[illegible]全根の製方は及[illegible]れども一日
の[illegible]は[illegible]文[illegible]極[illegible]
大抵[illegible]年の[illegible]
[illegible]余別[illegible]海陸[illegible]
今[illegible]

○紙屋　長サ百里横或十余里又[illegible]
大山あり[illegible]大海[illegible]
乃[illegible]あり上紙[illegible]
上下[illegible]
[illegible]極[illegible]
大[illegible]

ある事なり田野[illegible]
[illegible]
あり中紙[illegible]牧野氏[illegible]
柳[illegible]
[illegible]
[illegible]

十四日の雜茶すすむ十五日
又猶多あり一升改るの
酒を百姓農業を厨
僮奴とも百人の奴僕
中くに和へ一を法令の
法なり一升の地を稼
くに黍大なる黍を厨
鋤くに苟もの人くに野
んや地を稼ものいふ
を中るなる百姓の別の
五ふくや倉や倉
地懦なも赤上方長士の
時者の氣なの乱なる

んくくんくとの者揚て可第云く文武も
てんくの是なるくて是とも猶なる
法もなく頗る大義の風あるとも
そなるなりなる三年の中能を稽り小法なる第法
たり至東夷能屋隈なの法なる法海なも未熟い
す但天下の天下の我とう賢相別のおまとと
憂ざるけるなたり志
しやらんすく地い年清婦とも不府の後七八
子秘いある中之良花いるの
の玉なの家の憂い或いの
なりて馬くなるなり世
是以く玉を云とすす当府の家を廃ち天下の
憂之天下以治度とす

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤蔭　橘為仲朝臣

橘為仲朝臣

近頃市ヶ谷若宮八幡社前（自身甲冑ニ石像ヲ建
ル）寺社奉行松平伯耆守殿ヲ始メ多ク参詣ス
私墓地構内洞穴ニ安置シ甲冑ニ若ハ石像ヲ建ル
寛政十年城内ニ於テ為用地（長五間ノ物ヲ東ヲ
曲西亜国境西ハ韓朝鮮ヲ経ル地勢見極
右異国境ヨリ帰ル船ヲ厳重ニ防ク意ヲ示ス人
形或ハ人ニ類ス状ヲ見ル如ク非常ニ長甲冑ヲ
被ル者ノ形ハ高サ五尺ヲ超ス私小考ニ成元国ヲ
拒ル者ノ別称ヲ東夷ト云フ古来
九畳宮里ヲ上ロ浦ヲ古来

日本紀更に法師を離れ給ふ[illegible]
行基より之を授け給ふ行基[illegible]
法師を[illegible]場所[illegible]
まれ一人縄[illegible]
[illegible]海底に沈[illegible]
下部[illegible]
御用[illegible]
取り[illegible]
悪首長イトコイ[illegible]
用[illegible]

[illegible]
風波[illegible]
[illegible]
[illegible]

以八黄帝宣長所説の如く西域の国人移住の者
一説ニトロフ島ノ夷古来更ニ住来ス新潟ゆ人
私考域に初る日本人を見られ遷境まる
百年来魯西亜より渡りを入国所夷人を懸
ニ風俗も彼地ノ数所若狭を住ス又神地波雲
有り神邪宗つ神ニ呪文ホ相教怪異醜ニ
仏像を拝へ生ル有ニ既魯西亜ニ蚕食併呑
せらるる者多ク有ニ新潟ノ人ハ新蝦夷山岸ニ住ス詰
住居ス神地并仏像ニ礼ス魯西亜より走
ニ来ル檜示英邪宗門ニ京机ホ打倒ニ右ハ記表

相色四月新潟ニ来ル日波国信濃ノ夷人
ニ来ル日本風俗ニ表柱ヲカムイワ
ツカオイと号ル山ニ上ヘ押立ル其説も
言上ニ及ひ来ル魯西
西亜人ハ服属ハ千コカ島
海ニ来ル帰化ハ住ル私一名ニ周廻凡
二百二三十里ニ孤島ニ新規ニ開拓ス方十七ヶ
所ニ移ス夷人拓育
御徳化ニ施ル当付ハ土人ハ家ニ中
なるハ及ル中ハ右様ニ海離島ニ住ス異
国人ニ文極獣ニ祥ニ立夷狄ニ服ス仕

殊に後宮に助と云て不敬の夷人を用ひ私只一人
所に成行度く甲冑弓鉄砲を用
御威光を以て成行度ん後ハ夷人も私異名を
カンカネチユヤシリカム[イ]と申候由之又
彼地へ往来仕候いつもの知れ申候
夫より十七年後私小普請方和蘭訳士の名文化
四年蝦夷地へ魯西亜来寇及扨防御為用
又ハ蝦夷地へ蝦夷人其御ハ騒擾後南部
津軽南部之人数ハ勿論仙台秋田と甲冑弓
鉄砲を用陣立場田摂津守殿ハ見分有之候

彼地ハ私成行ハ西海凡二百里計之奥蝦夷地
リイシリ島ハ魯西亜人扨防場所為見分可致
哉右摂津守殿御宿ハ近所ハ波地へ
注文仕ハカラフト夷人ハ相乱御異国防戦ハ
扨宮甲冑着用仕右ハ甲冑相用
相成来候ハ一所懸命ニ覚悟及仕
勿論ハ四年ハ九ハ勿論ハ太平二百年
無之故ハ成ハ右太平
御時代ハ十七年ハ甲

曽仕異国境又ハ外寇ニ虎口（ヲ出ル）ハ漫々
たる氷海風波ニ旅を凌渤海たる砂漠ニ苦を
辱ニ仕或ハ地理を見極メあイヒカリ河源ヲ深山
幽谷百八拾里ニ同是ニ人跡ニ所（当中略）
山或仕カムイコタンヒヲ大敵所ニ破船漂流り
おろし　御米市ヒヲ水中ニ陸ニ於ケ沈中ニ
数日糧米ヲ絶チ切角命のみ仕其ハ極寒中
色氷ニ所ハ氷ニ上ニ歩渡ニ当中九尺ニ地
仕又ケ十ヒリ浦アトイヤ所ヨリ不モロヒ
九九十餘里急忙御用ニ立ニ度ハ夫ニ昼夜風浪
を不厭押切ニ乗ハ子幸万若風波不違ハ畢竟
異国境ニ地形相紀て中ニ人跡ニ深山幽谷
一端入ニ未踏ニ地ヲ踏ニ敵情ニ探深ニ要害ニ備
当要ニ所用私ニ人微力ニ以東夷西戎ヲ折衝
一仕ニ言ハ古ニ人ハ忘報難ニ出ニ度ハ
是偏ニ武門ニ武類勤方ニ本懐ニ
面目ハ可ニ
御威光ニ於ニ旅ニ責ハ子孫（武功ニ）
抜傍（活忠勤ヲ為ニ）ハ名ニ肖像
を那刹ニ設ハ棺中（切腹ニ）ハ四海ニ知ル私式

小官微禄ニ而生涯を不顧古今
名将勇士ニ武功を慕ひ不相変なる
事ニ付而自分ニ相勤只愛
天下国家ニ為忠勤ニ仕ル骨砕身ニ
西戎と横行仕異国境ニ九年初和
見ニ而ニ吃度相ニ元亨元年宮殿九ヒ年文化
元年ニ両度相乗伊豆ニ安房ニ房東西
地ニ処ニ知行ニ中上再度ニ
以ニ自分ニ則右ニ用ニ
事ニ付右ニ自分ニ仕ル国所上地国所
ニ而ニ再度ニ甲冑

を相用ひ刻苦ニ勤ニ仕ル処ニ尤馬ニ骨
折ハ奮身ニ仕ル事ハ天命不過ニ仕ル中ニ
堪忍ニ仕ル年来ニ不相変老体ニ
及ひ色塞ニ雪ニ乱血枯ニ白髪ニ蹉跎ニ
成聖明ニ時ニ巧官ハ有ニ
遠功ニ泡ニ成ニ又ニ
相変ニ小身ニ相ニ扣ニ 作者ハ老ニ
仕ニ心ニ天命ニ何ニ
武功ニ形身ニ残ニ 忠勤ニ志ニ
成ニ 建ニ 者ニ 不相変ニ扣ニ

中東ニ所ハ右石像ハ我ヲ東海ノ漂
ハシモ石巻ノ右石像所謂庫ニ角ニ前建ル
事ノ如ク輪奐ニ右建物ニ私家数庫ニ
抱角ニ全数打ノ御前書ニ光ヲ出ル右ハ
四方ノ迄ノ弁ノ仕様中上ノ如ク

文政六年
午十一月

右田内蔵助之義
出雲ノ
近藤重義

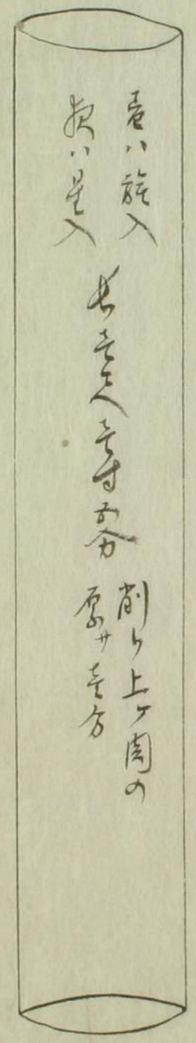
近藤重義名守重号正齋字子厚初ハ長子ヲ見ル心
ヲ寄ノ子附累遷シテ勘定奉行ニ大坂ニ与ル矢
東ノ小普請人

自得流昼夜狼煙揚矢傳

百目筆中九寸ノ筒ニ長夜ノ図

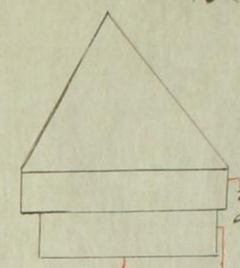
揚矢拵ノ法

竹節ヲ切ル五拵竹ヲ用ヒテ竹ノ内ハ白洗ヒテ能ク
煮ル洗ヒテ内ヲ削ル



竹の周ノ皮ヲ削リ平ニシテ後ノ拵ヒテ長サ三寸
ニシテ上ヲ布ニテ巻キ六ツ上ヲ拵ヒテ二三遍
ル程ノ新ノ糸ニテ内ヲ九分ヨリ残リ三分ニ巻ク
拵ノ筋ノ通リ一巻ヒ(ヒ)ノ端ヲ内ヲ巻ク

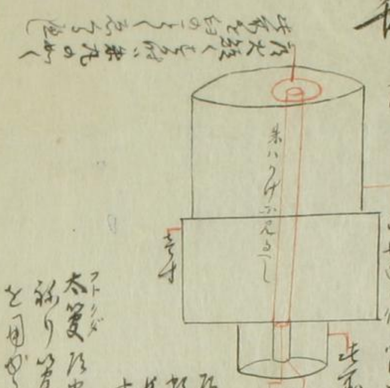
根



根を作る或い様

先如図ハ竹筒小入る長方細長き方
目方たと(心長の目方六段なり六段
なり内外共長き方と小さ(一)と矢四寸上り約今を見て根
を造ハ之を切り削り約今を縮を入て
若根低く作る(切を入る)

筆



根を作る

先如図ハ竹筒小入る長方
長方七寸

此系統地の筆口小入る長方

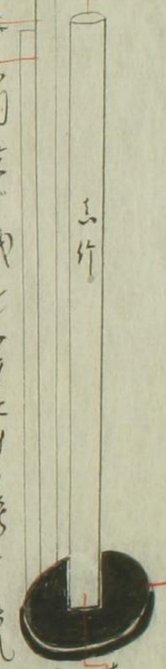
筆先ハ竹筒小合せ相入る位小さ(一)長さ七寸

筆先ハ毒中或ハ際方尾遠に推出てもみ長く位(一)上の
方を絞る

筆先完第図の如く筆遠に推出てもみ長く位(一)上の
方を絞る

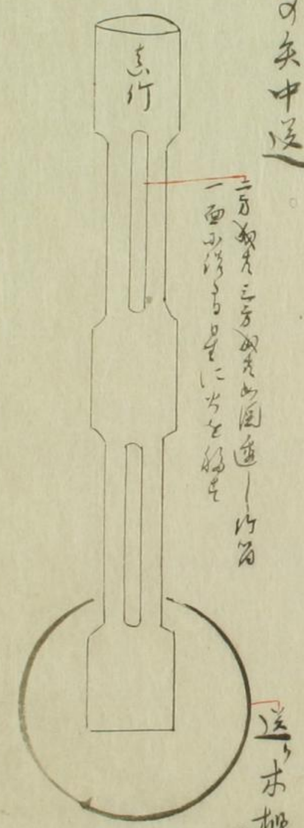
筆先完きし後或ハ長き竹筒を一回り(一)根
筆先完きし後或ハ長き竹筒を一回り(一)根
筆先完きし後或ハ長き竹筒を一回り(一)根

竹の中通り竹と矢筒竹位



焼き紙を二重に分る紙を厚目にして入れ焼き紙を
強く包む(一寸上ゆき竹に巻き紙の端を切る)
焼き紙制し方 的禁を多く巻解(にかしか入れ筆紙ふり
巻に敷き時ぢん引き方を加(て分ち
又焼き紙の法鶏卵の白身中筆紙ふり用ゆる方
必竟焼き紙と云ふ方を焼切らざる為なれば通る
なき様にいろを入れ紙を包む巻

矢中通



上田謹夫 指矢に矢を通ふ節通り
突出し一枚のはとりまるいふ切る
竹首一寸の矢を結ぶ中通り矢の第中(矢を矢の火通り方
矢を指入る日時くの矢取り後て用ゆ(一図ゆ

送り木枝

矢の図

寸元ハ玉竹の出る心寸不矢矢第(為る中)に
寸竹の第中より矢(矢を結ぶ巻
巻三枚巻を用ゆ

送り樫之事　長尋　但上下岩板之

大きさの海すり寸法を通し筆の後先へ移させり

小口板上下大面方樫を用ひ先にて分る

先小口と筆の小口とを入れ割り寄合せ始終知れ合にて一ぱつつけ寸出に

筆嫌う為しと知り一寸筆の小口を好の切一粘度くとき

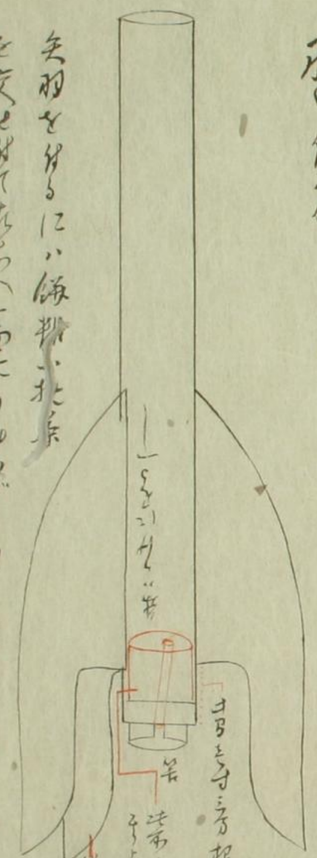
刻み分て出す時一寸程の所一粘度うにてこそ

る一ふし粘うるまて後先をとくさにて樫切る法

一送り小坂能一位に孔を穿てもろうと乃ちとをしと共がこりけば上下共

両方共を中寸切り少し

始ら四枚に切る法



上田流云 沙弓に送り三脚小図しかる法也 筆の上方甲型なり 其筆も嫌ける為 既に方筆の百目矢も筆

送り二脚なれども先を抜止メ矢とは寸より上も広く且つ

かるし

型の分方

矢羽を分るには鎌倉北条

を文也分て上方一面にうみ

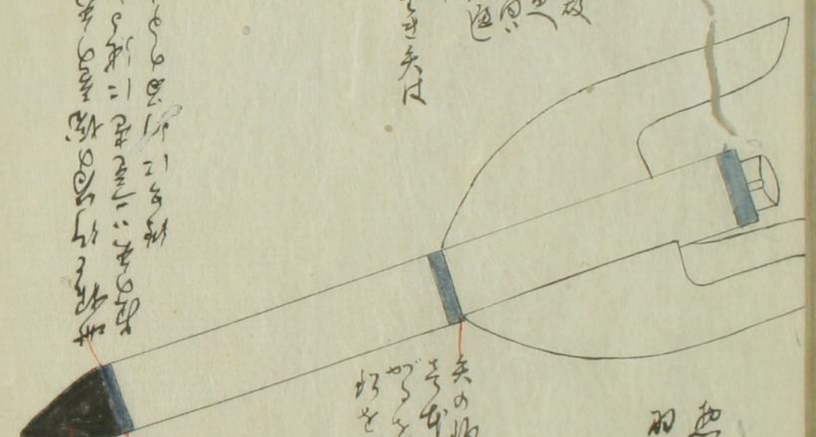
ぶきを上一大形を出すの形に分けかきたらは

そ上を羽と竹笛（ゲケて南）こて一通作り、そ上を縫こて四通作る
古俗の坪形を申す也

一矢用緒の儀

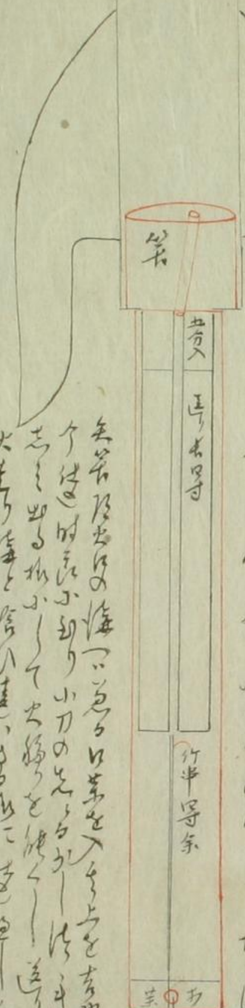
笛の製めく（ゆ）ゆ（ゆ）ゆ（ゆ）ゆ

矢筈之図

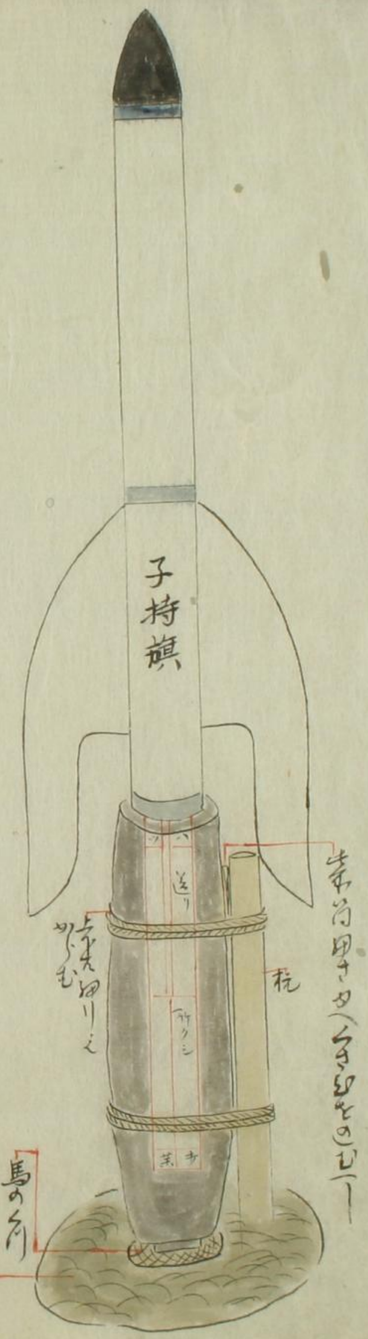


竹節の筈巻（付）北条流

竹節の筈巻



揚矢焙炮に付之図

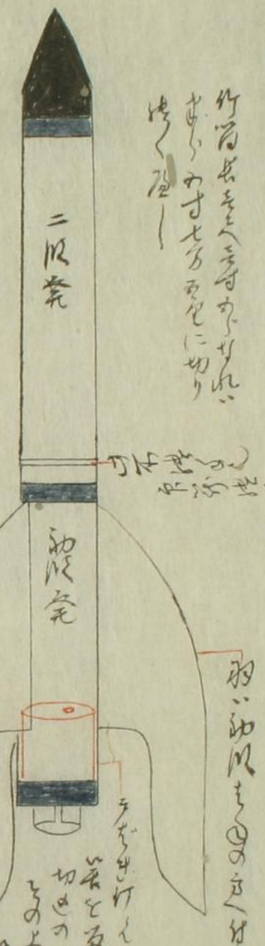


[illegible]

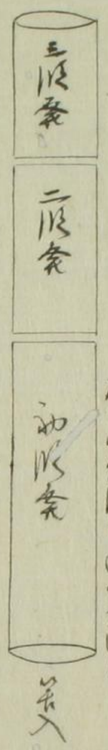
[illegible]

[illegible]

二段弾の矢柄の図

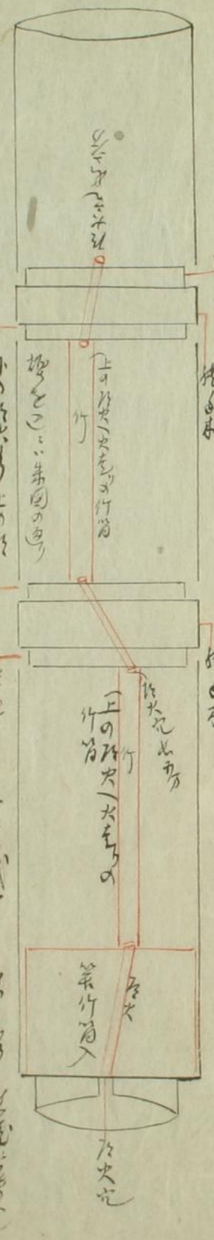


二段弾の竹筒切り



二段弾の竹筒切り

二段弾の京都焼の図



一 打茶撥合法之二番目の法　　廉原訳文

白縮砂拾匁　　硫黄壱匁半

一 新古矢撥一車

一 竹皮矢撥一車　　之を第改訳文云

一 竹茶撥合一車

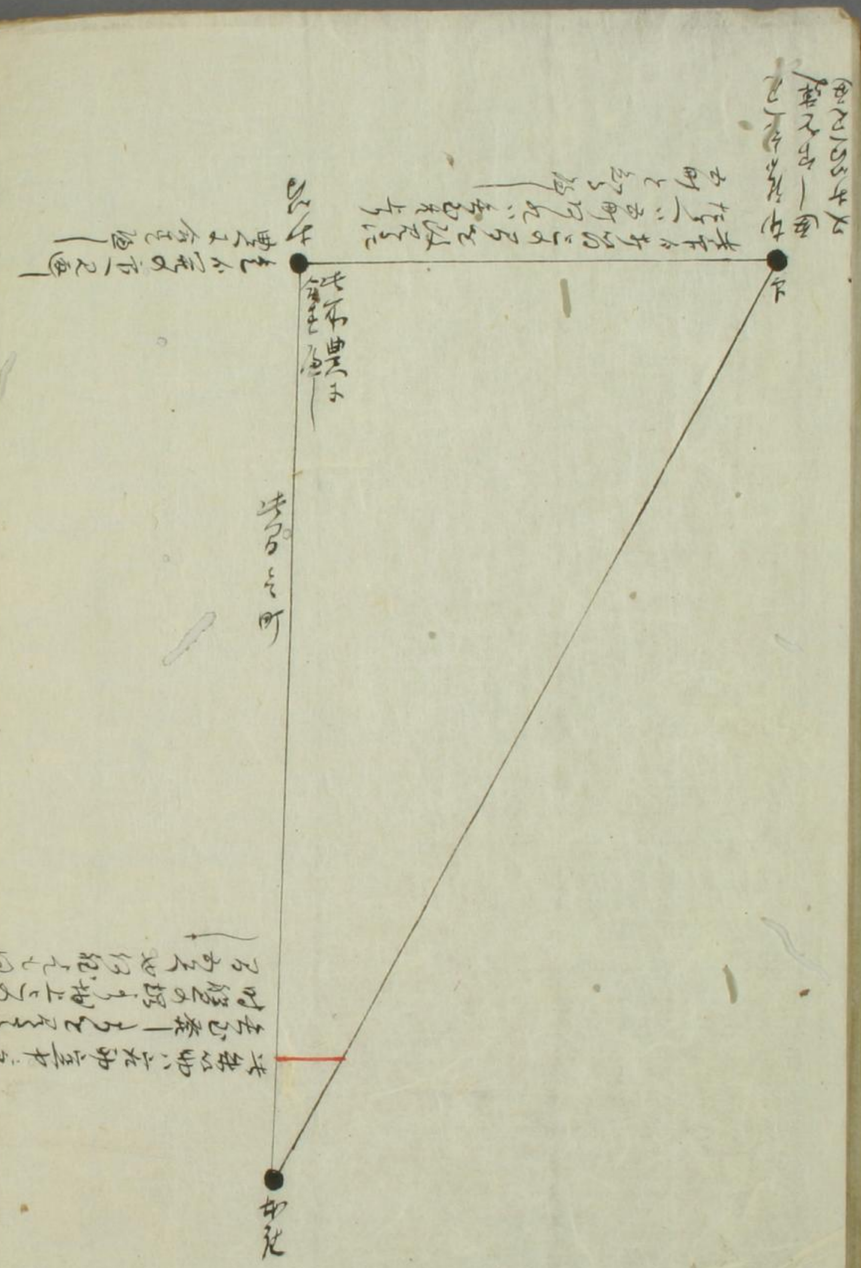
一 竹火茶撥合一車

右共竹皮ヲ竹ノ皮

一 悪い竹火茶撥合矢　　制法　極秘口伝

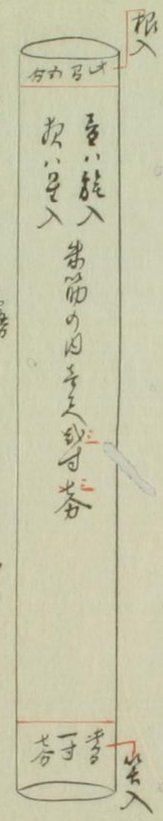
一方箭を建たる所より左右に一間先平地ヲ切発一廻たる弦絃完
まし地面を見定め方箭より三町發二三町發離地切発を定め
天上艦の上平にを定めと此しを定めて方時方艦を
ほと見定め　撥の弟行ほ南ほと見定め武艦の之より地上との丈すを
測むほし　たと（書方天方箭ヶ切発と三町方の箭ヶ切発と三町方の箭ヶ切発を織る法を
地上に艦を乗切発ヶ方ヶ方（此地面に完く艦の面の据ヶ方箭と
切発ヶ方箭ヶ西ヶ方ヶ地上ヶ方天也方艦ヶ方箭の西ヶ方ヶ方（又西）
艦の面の据ヶ方ヶ地上ヶ方天也方艦ヶ方箭の西ヶ方ヶ方（又西）
之ヶ方を建方箭ヶ方箭ヶ方の西ヶ方ヶ方（又西）
方町と知る色し　大測ヶ四に完ヶ方を撥に伝へて撥し見るの
法也右撥弦の曲天に能く合法一打口伝

一前方　撥に撥し方箭ヶ方箭ヶ方箭ヶ



百間弐筋第四十九寸筋ニ付

長矢揚ケ仕方早揚



矢入

又竹筒ニ付矢を入揚ケ 但竹の筒を切り抜く

第四十九間一寸弐分ニ付

第拾五番 矢揚ケ

第拾六番 矢揚ケ

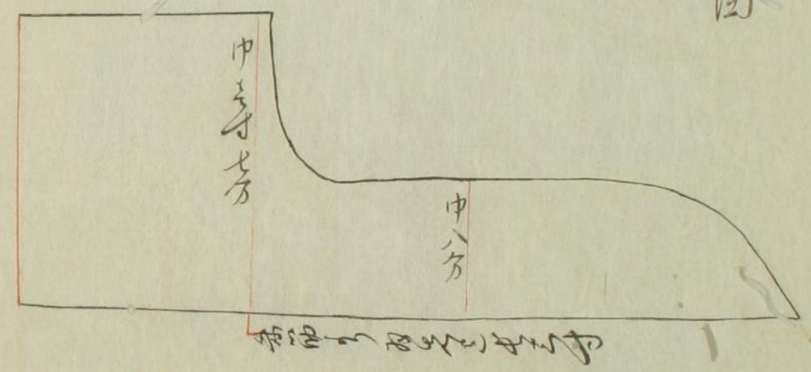
矢揚ケ金の儀五匁五分通

太鼓の矢出場ニ付百弐拾四間ニ付

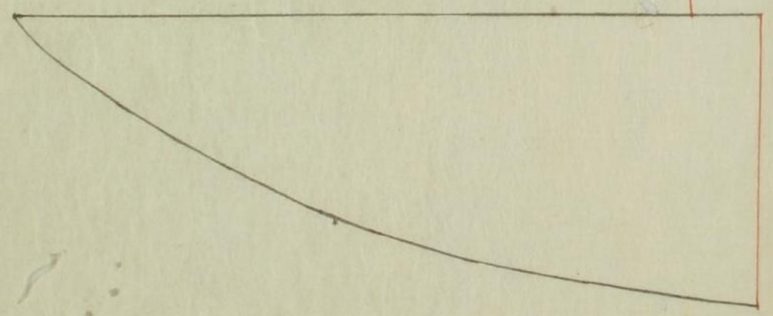
太鼓の矢上り三町ニ付弐拾六町十五

矢の板取削り方図

想長八寸七分宛
厚サ五分(四)
巾五寸四分



右矢の制度文政十
壬辰年九月十日申ノ刻ヨリ
上候ヘ　上田謹

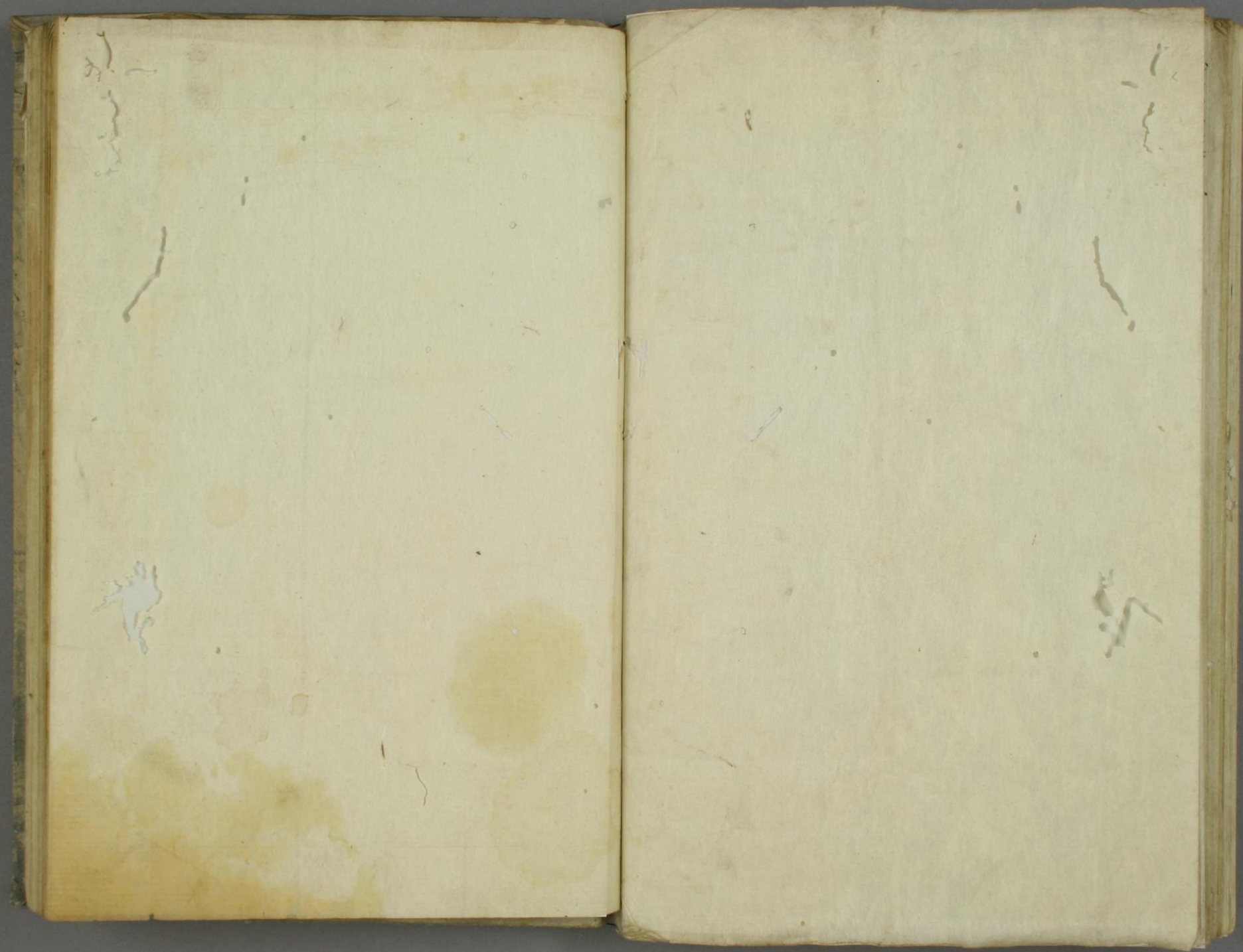


右自得流毒庵本図揚矣却作了因名庵号浦也

以洲書了拙引者也

文政十一戊子年三月

上田莊次藤原謹



定西琉球物語

蓬莱閣

天和の中武列の江府に定西といふる豪門ありて此七十時
さにいもうとのひとりにてそうみこ豊の安臍ノ弗乃角拓拓
くてカ中ては第一勝れいまたりもにてちこ十六歳の珠
彩ノ和にて家にしり者にし方くたくそゆらそのすノ和ノ
世ノさそらるくに江府ノちノ霊宮殿平の門家ノくノく
任ルるノけ定西ノ来ノくゆゆらるノ和さ拓そのノ
同定西ハさにてるちなみくの及心ノ志ノ名かそまノ佐原から
そくやかノ元のいいノ名ノめらそいかゆらの成まちそそ
若て同は定西ハかさま金山カ仲官るとくく対ノ和ノ来

蓬莱閣

かゝ一石ゝ〻その思きたらるにしたがゝ
行ゝ行ゝ行ゝ行らるゝとゝ
さゝむかひゝゝきせかゝ行ゝ
思ひ出て思ひ行らきゝ所ハその
ゆさらゝ一ゝゝゝさくゝ
いかゝゝゝ行るゝ一ゝいゝ
原忠者のまゝ行ゝゝ
その方ゝゝゝゝゝ
らゝ人のかくゝゝ
まゝゝゝいかゝ行ゝ

かゝの原ゝ行ゝ一時ゝ
たゝゝゝ行ゝゝ
らゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

和州和州にてまづ〻まつ近なるれハ安藤会〻和〻奉
公をそなへらるゝ所なり〻高和州〻〻ゆゑ〻の所なり〻に
よりて高人なりにかゝらいと〻ゝ多ゝこゝろ〻むつひけり
ゝ中〻さ〻おさと多い男加をとゝ高〻なてゝしけりそ
〻〻志かゝのゝ和姫〻〻ゝ所〻ゝ信〻めゝゝれハ四そり
まゝ高〻高〻人ゝ〻ゝ時ゝ〻和をゝ〻ゝし馬〻掘和かく
和ゝとゝ乃ゝは成〻かゝ〻又かゝまゝゝれ寿〻〻に情〻高
ゝ高〻なゝゝ〻ゝ異見〻ゝ〻さゝ〻人ゝゝゝゝ〻ゝ社ゝそむ
ゝ〻ゝ作ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ年にしたゝ〻ゝ方記乃例を御
信〻なゝゝ〻ゝ見ハ行ゝゝきまゝゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ異

見〻ゝゝ高〻ゝさゝゝハいゝゝ薩摩〻ゝ高信志〻
高〻近〻高〻ゝ〻ゝ高〻乃乃那〻ゝ〻〻〻千見に
ゝ乃和かゝ千ゝ〻ゝ〻ゝゝ〻和情〻ハ〻ゝ千高〻
ゝ〻ゝ弘ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻

何ゝ薩摩の屋敷に詰れる醫師何某の法眼と云へる人
とれなりて意必ゝ法人ゝ移さんとすらん
ゝゝ年ゝゝ音信を法眼の方へ知らるのかれる
右ゝ云ゝ行ゝ八師に出なるまゝ今舟の呼ぶべき
名を知ゝ何なるを法眼はしむんとそい行ゝ
為に此の法のゝ為に父母ゆゝ
ゝゝ叫ぶゝ只右ゝ攻ゝけゆゝ知ゆゝ八知と
さまゝ好ゝ知ゝけゝ八以
るゝゝ只ゝん意ゝ為ゝゆゝゝ
此後の元薩摩へ移ゝ屋敷に移ゝ醫師の

許知る事ゝけゝ法眼出ゝかの文知ゝ云ゝのゝ
知ゝ法眼いゝ社ゝ法ゝき出ゝと年ゝ舟にて
ゝゝ為ゝ来年近家ゝ舟の事ゝ方角ゝ
元ゝ人家に知ゝ為ゝ為ゝ知ゝ
掛ゝ知ゝ中家屋知掛家ゝ又来知ゝ
知ゝ来ゝん法ゝ知ゝ法眼法ゝ知ゝ
ゝゝ法ゝ法ゝ為ゝ法ゝ知ゝ
法ゝ為ゝ人ゝ屋ゝ法ゝ知ゝ
法眼と法ゝ来ゝ知ゝ
此ゝ為ゝ法ゝ法ゝ知ゝ

年ゝ毎ニこの法口中ゝ病出ゝいまみ高あををあをかに
伝ゝ流水和さ点絶つ和さ湖さをれを点ハをを〻〻家
伝カ〻なをを〻〻〻をたゝ法服きゝ幼高あを
ををいゝ和八を足のゝ〻ら法ゝ明らをよゆら人を
を湖ゝををいをを〻ら明を日をを口中ゝ和ゝ屋を
らきゝ〻お元流れカのみたゝ家ゝを〻ゝ法服
高ゝカ一家行を〻ゝ〻ゝその法屋ゝ法ゝ切られゝ
ゝをきゝ比志法伝高を八を和ゝ法服カ洋に
来ゝ永ゝ明をきゝ〻ゝ法ゝ奇妙ゝ高ゝを
をいをを〻ら法来ゝ法ゝ和法服ゝゝ高ゝ法

比口中カ高を法カ妙ゝ高を〻〻〻腔中ゝ法ゝ和ハ
服ゝを高ゝ明ゝ〻ゝ〻ら高を和ゝ高ゝをのゝ
ゝをゝ〻ゝを法ゝ法服ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ来ゝ〻ゝ
を〻ゝ〻ゝ〻ゝ別高ゝ〻ゝ〻ゝその高ゝ和ゝ〻ゝ
ゆゝ〻ゝ入ゝ〻ゝカゝ〻ゝ伝ゝ〻ゝ時ゝ法服和ゝ法ゝ
来ゝ和ゝ来ゝ〻ゝ琉球ゝ〻ゝ〻ゝ法ゝ〻ゝ毎カ来ゝ和ゝ〻ゝ
伝琉球の人ゝは高ゝ〻ゝいゝ人伝を八服中ゝ
カゝ〻ゝを〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
伝ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ

[illegible]
[illegible]三月[illegible]隔[illegible]保[illegible]毋[illegible]四[illegible]
[illegible]佐志貴王[illegible]
[illegible]二月[illegible]
[illegible]
[illegible]王[illegible]
[illegible]毋[illegible]
[illegible]王[illegible]
[illegible]

けて如何ぞ毋れ[illegible]隔[illegible]
心さ[illegible]
やうやく[illegible]毋[illegible]十[illegible]
[illegible]王[illegible]
なる[illegible]
[illegible]十三[illegible]口中[illegible]
[illegible]隔[illegible]保[illegible]
[illegible]
[illegible]王[illegible]
[illegible]毋[illegible]

はしらにかけまハりて日ゝ
ゆくゝ風一向ゆくゝ
新しく泊りの向ひ一志
くまつまゝ琉球の船
ゝゝ日ゝ人ゝ
たゝ主ゝ
ゝゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとさ寒のそ屋一さく風かから月やのやうそくにく色
いかとうまハ宮乃怪来て望こうら屋一連陽なひ
也ひくらーさ怪来一ちにかんつみ和ほうをさ
たくび色芭蕉中色俳よとそかき海の砂之流成色
四季ゆくりの中の四五月のかーろうく氣雲和ろう
ろ面怪来色望くかさき拔とそくい屋ら和さし
らるくさき帝中色ーう春和色一移ゆ色ゆとさ
ちて入梅中にもか梅中色されみ大ゆしらす石かき和
ろうろ二ちくーう涼くーさ石ろみかきくたくへく石ろ
えにいろくれ花月れ攻れ行くたく石のいろ色宮ひう

ひ石乃系紐和みかきたらくしいかくひろ屋とに
ら廊とろう宮ひまくそ王子まつ奥に入うやくく久
ろひくくそらたまれ遅風香ろ月色の砂色のく磨ほ
のかにせゆ王子立色くさるなるとのろみにほく玉屋
れ中に入ゆハ色の俳ろと立くれ色せす高ほいのたり
かくれろう玉れんさーとやらんいたくき氣かまうに
珍珍をさけくく年れ和十五六宮ひにひくきよらかく
たれに仏女さんほくとろらひたく庫れの海に掲き妃
和書たらとろうに那ゆ望ろうろ一人の年ろたち侍
女さーくくく岳の皆和まつ一家和保けさすを足乃

大カナヒ乃ヨのりく祇に笠ナ乃ヶ袖乃姿和ゆ乃ん
ゝ思ひ中ゝにかゝつかゝ乃ゝ見ゝらゑ乃ん何ゝ家和ゆ乃ゝ
笠ん乃ゝ退けて白玉ゝと信ゝ濃ゝ之ゝ呼ゝけゝ乃ゝ八王子と
いかゝに為ん長けゝ乃ゝ世乃ゝ信ゝ濃ゝ乃ゝ為ゝ乃ゝ赤ゝ乃ゝ為ゝ乃ゝ
ゝたゝ一ゝ日ゝ乃ゝ為ゝ心ゝに入ゝ乃ゝ中ゝ人ゝとゝ久ゝ乃ゝ夜ゝ乃ゝ
祇に使ゝ乃ゝて東ゝ乃ゝ方ゝ乃ゝ中ゝ乃ゝ口中ゝ乃ゝに和ゝらかせゝて
志ゝ乃ゝ為ゝ乃ゝ為ゝ乃ゝ為ゝ乃ゝ陽ゝと三ゝ口ゝ祇ゝ乃ゝ方ゝ乃ゝ志ゝ乃ゝ
為ゝ乃ゝ為ゝ乃ゝ為ゝ乃ゝ月ゝ乃ゝ為ゝ乃ゝ為ゝ乃ゝ為

八日の町へ行くとて係りの人をば
こそこそ佛山の仕合せなる所なれば
そこにて和船の場のものとそこまけぬる思ひかにて
行のにてもなかれ人をの動静を乗たらはけれ福
建領の人の舟を船とりけるを
そこにて立てるを有れ金集て
そこの方にはつらく屋一枚ら八隅ともさ利ある仕合人亦
等は住こそこそ人に成屋しかまくけるとんの方なら
やにそいろの屋ものすこそらやゆく絵ら屋きそこ吹けく
都こそこそ時主ときこそむい物仕の庫いてに亦方の
ゆれ船一にくものこそ仕合を通なくはこそ動静を

亦ら方たこいろ方ら寅の方と和蘭摩こそ面くれいと
そこそこ和仕服の元弟に仕せ宮へ亦くれ八けれ福
建人の舟一艘こ書こ屋く行らんを和八屋ら一けら知こ
有宮に仕ら主こ名こ主ら琴さこら亦
にくゆく吳事やら主ゆこら吳ら主こ吳乃ら宮人け
回ゆこけ吳他ら仕人和こそこ面くこたらたこ
ら一けこそゆこけ吳の事を亦ら屋こと答て回
福にまこそたこそ行こんゆめくねせここけたら
仕主元吳の信和こそ行こ九こ仕方ま主ため
一ら亦主八一出こそこんら一和等めこら知吳

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ものハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]

大仏殿の西門に高さ二丈六尺の額掛けたる所の
一間の西門に一日隔りの中れたる十二時の堂に
大仏の天子の御遷座の行列をすくーを天子
まます都八幡宮の行列なり大仏殿の行列
人々を拝する所の御輿に琉球人の宿所に御輿
御の時の所の宿所に琉球人の宿所に
やとれ行く夜と共に行列
ここにて行のみ祝られ寺に行く大仏金堂
しけ寺に行く堂に行列を
天の下に人いくらしもしろく見るに重なれて

くるを宮に傾かるる人に傾かるる人に
寺に書物なるつみ立てる物なるもの宮に
住職もしろ物一を行くに見めやんと見物をえ
見るるる物の門を大仏の堂をえ
ら一を奥へをいかに行やらんと走らすたが
見物を見れ文を見る書を並べ居をたる
なるを見に仏殿を書物をしを仕物を天子
物を遊ぶ見る見に書物を行列を
物に二月八日に王の行列に二月を祝物を桃
を餅に行くに豆のらく灯物をやらけ方

[illegible]請の石和川ゝきゝくの[illegible]戸太鼓の音さゝく
[illegible]伊勢いつ道と云ふ[illegible]風ーにし色也祝かゝ
[illegible]人に向ふ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ清水の使ふ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]天乃社ノ巫女何ノ文ヲヤコミサセラレ人さ[illegible]
連帰ラレ[illegible]所ニ[illegible]ハ処ノ[illegible]ものに
[illegible]ハ[illegible]ナカラ[illegible]ものしろ
男女の文ハ[illegible]ノ習ヒ[illegible]日ノ[illegible]女ハ男ニ女の他ニ
[illegible]ハ[illegible]ノ[illegible]ものハ[illegible]
に[illegible]記[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ

[illegible]れ舟乃後に法眼[illegible]カナリメカ事又ハ[illegible]の事
と云ふ[illegible]ふ[illegible]ら舟一人かれしむ祖に用とる[illegible]
[illegible]ハ[illegible]王子れ方こ[illegible]いたさせられ[illegible]夫にし
[illegible]ゆるさす[illegible]ハ[illegible]人[illegible]い[illegible]舟の[illegible]に
[illegible]文と[illegible]ひ[illegible]ゆきれハさらハそゆるさ
れり[illegible]れ[illegible]ハ[illegible]の[illegible]十舟和[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ドモ是ハ初ニ云ヒシ如ク人ケク一向信ニ在リ心ノ志ヲ
宗トシ是ヲ助ケ申サンニハ只一定メ作ラル
程ノ石ヲ手ニ入ル事ハ難キ故ニ
其車ヲ引ク事ハ彼ヲ人ノ一ツ宿ニ頼ミ
ヲ引クニ付テ彼ヲ言ヒ出シ申サンニハ
程ニ石ヲ入ル事ハ難キ故ニ
其苦患ヲ助ケ申サンニハ
高ク踏ニ名号一遍唱ヘ
時ノ苦ミヲ助ケ申サンニハ
ヲ作ル事ハ彼ノ念仏ノ功徳ニ
言ヒ出シ申サンニハ
ケ一ツ申ス一ツ
し救ハ
是ヲ世ノ
さくるから
いかれ
史の車
不思議
ヲ
ヲ
ヲ
ヲ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]くるべきの事をはなしたまはんとて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

駿州山田仁左衛門紀事

山田仁左衛門長政はみつから織田信長の臣藤吉郎
山田八郎田乃別名之を用ひ給ふ人也信長に聞て駿
府に来り市を立て金銀を求る為に富商
すると雖も市中の繁華豊を求めず常に大志
有て仕官を望まず其人物に任侠にして術を能
する事をこれを市人廃逸の徒と云て
友を絶たれいらく孤にして世に出されれば人多く賤しみ立て
毎日にて事行けれ

むかし駿府中古しへ文永十五の比より
異国へ商船通路有しかは京大阪堺長崎
兵庫等へ文跡遥羅東京堺寒西土
の船夷諸国へ渡り肥前長崎へ商船来り国
者共毎年二十艘宇内へ渡り
船数の船夷へ文易する紅官へ制
禁すれとも異国へ渡り来る所の貨物を長崎
へ絶て船国へ商売する故を以て
商船貨物ハ名外外商人へ渡く物ハの船
年々数多へ渡り来る事大異

陸奥守山内伯爵家ニ於テ出雲守清家
[illegible]作ル所ノ国史印ル所ノ系
等ヲ初メ和漢ノ記ニ千ノ年久シ醫府ノ高明
佐久ル所ノ国史ル所ノ[illegible]
使ヲ遣ハシテ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ヲ乞ヒ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]

[illegible]ニ[illegible]
[illegible]ニ[illegible]
[illegible]ニ[illegible]

屋すなはちと告ぐ古国誘ひ奉りて伯つしみるあり
還罪に屋〻ゑれいふ人倭人の来りあるべき事
つくさきあ王の命行るく倭人の来りあ王城に
先なはち〻〻二人あ衛一所にこめをく楽鋼す
ちあ一物ゆ行〻〻長吏先て日国王は手あ王城に
はなは〻〻送〻をす環中側に異之玉人目あてえめ
護衛して環鈴に郷今す日あ経て王城に来る倭人今て
日国王はちあ人ちの国の亮化くあ
敵〻〻たんゆら王あ王を祭して
入〻王あ左右に兵宏あ列く移人の侍女圓列

ち〻吾係厳重二王先てまえゆ女冠侍曇雅目あめく
ヤす命して日別館〻留宿一休慰す屋〻そ王入く
退きちち人別殿一引く留宿セーめ答慰忍美と
傾名〻夜ゆ中〻人〻ひをめて使昭して出来く左
右の右を退ゆ御ち国ち扇をけちあ人情愛
す二人殺ちてをとり是ハかの王也云日神ハ山に住
也雅四ゆれ思り使主の自ちをす主人神居と共て
黒石出〻愛恵乞仏海一大湾にて住ける土に
来ち神来ちのち倭国云年一（ロリコニ国と相侵伐す五中）
孔〻時神語をゆくらー倭人の玉にちち右あゆるら

一騎の將と成り日夜の如く弱し武勇かくのごとく
傳ふるのみ俗軍懸とゝなれ弟章に勝利をはゝく
軍功を立て王賞すること甚し和て拓の女を妻とし
王位を襲ひ傳國を立てゝ和領業に勤て某
勢力に伏せしめ以ら以ての外なりと申れ奮戰に至さるゝと
故に大唐に宮和傳ふ傳商の事ゝ侍ゝ事に
遂ゝ累日れ是れ遂れ和者として和に立ち志のよ
思ひ和の武名を聞き和て
來て又徴婦にして和の威風和和更にならて生業の
收伏するに志んやゝ志ゝ況らさるに二家を退て

下仰に寄傳一和等けて和に來ゝ和の体懸甚疑惑
すゝ而て王の言をゝ當意和同くるを仰さゝ
事風風堅切と仰さ堅て主同志のゝ事家ゝ奮
日乃者和志ゝ志ゝ和無家ゝ逆り堅業家の
意意を祈一傳久年れ好記をゝび身ゝ和中に全て
傳朝高家者乃著陣留宿和なゝ和中志く傳
和文昌和ゝ利降多かゝ事和欲すゝん
和の高家に流れゝ弱從者として主に
黎的ゝ乃ゝれ以外者のゝ志ん乃和懸ゝ後
者の仍と成一乃ゝ去ゝを淫禅一去ゝの事風

西尾の名器を拵へ驛路を設け海陸運輸の
道を開き其他振古なき西乃貨物を悉くられ市中
に充ち一大に貨殖の利を益し国に富み国に
富み和人皇に陪し先く富に和し市中の売買
繁盛なる如の商賈世間和蘭伝に遵て
大に交易の利を収むる事実に之西京の比
商賈又諸国に走る時山国松ん嶋に王屋京にて同
和国に走る時は時勢の無社陪臣新交に
住富く神威益に輝き致保す今
猶御国に幕府に伝すること有に
事に軍艦を造り弟に一時利を得るとも
神佛の冥慮に陪ら寸八い世に家功を奏する
所屋久や伝く弟艦を国に陪馬く事て神殿軍
船を造り一時に持去る和蘭の為に奇物や標題の
如き一世国に伝ること所に書せし年月日名
傳記の暦を去て国の地名を記す屋に高
如諸一く学者寸傳高山事の後神殿に掲て西氏
をして伝ること和蘭に比す
今幕府高義を以て異国軍船の作之

母の山田の新旅所にて[illegible]
[illegible]の貴人[illegible]山田[illegible]物也故に遍羅[illegible]貨
器を送[illegible]贈賀[illegible]唐物[illegible]
[illegible]所の氏長湯[illegible]を遍羅[illegible]
人を数年呼に遍羅人の事[illegible]彼に山田[illegible]
[illegible]田[illegible]を主[illegible]友延の名に書[illegible]
[illegible]友延の徒堂[illegible]に[illegible]は言に
[illegible]と[illegible]
主[illegible]時玉中に於て[illegible]
[illegible]一主[illegible]

鄙を定め侍[illegible]
[illegible]田[illegible]遍羅人[illegible]
仁左衛門遍羅に[illegible]傷高[illegible]悦[illegible]
[illegible]府氏舊[illegible]に[illegible]の物を贈[illegible]
[illegible]の類[illegible]市中に[illegible]相伝[illegible]

寛文廿一年五月写之

以為更にあらざるなり世を極め
末法入り諸山無かりけるなり

五

ヤンパニマルス

二回
二回
三回

二回
二回
二回
二回
二回

二回
二回
二回
二回
二回
二回

二回

安改六未季冬

兵法雄鑑

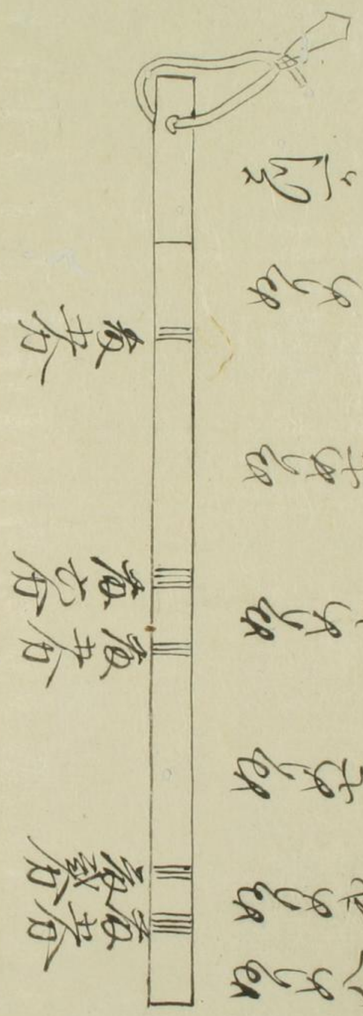
さいさいの図

さいとう様子う書圖

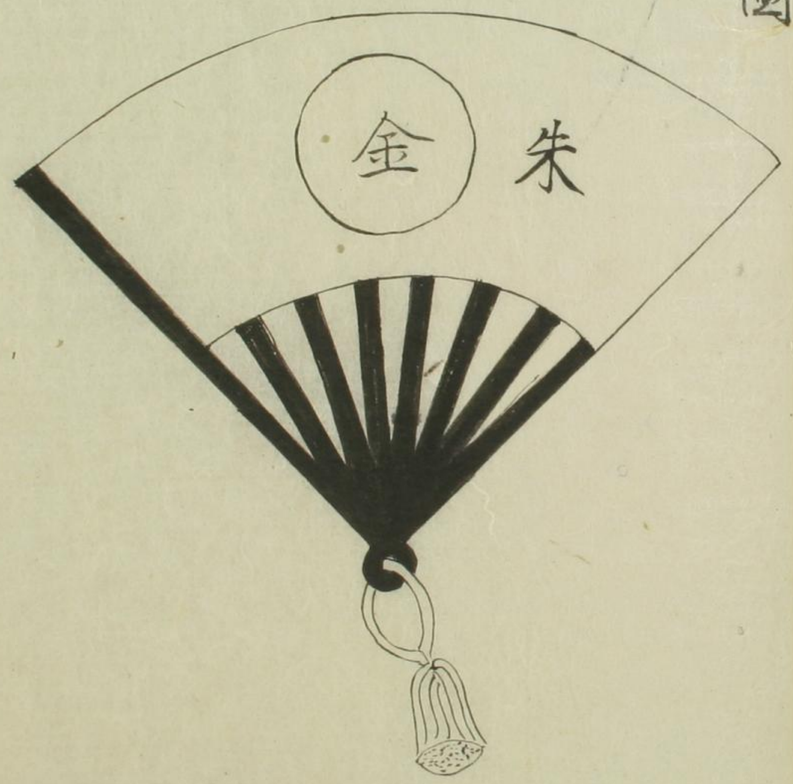
龍不動梵字摩利支尊天梵字ト浸及梁ニテ金輪梵字

九字文

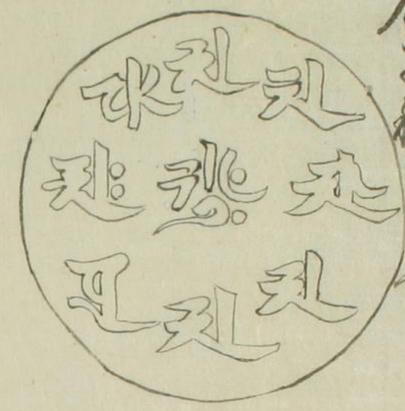
鞭圖

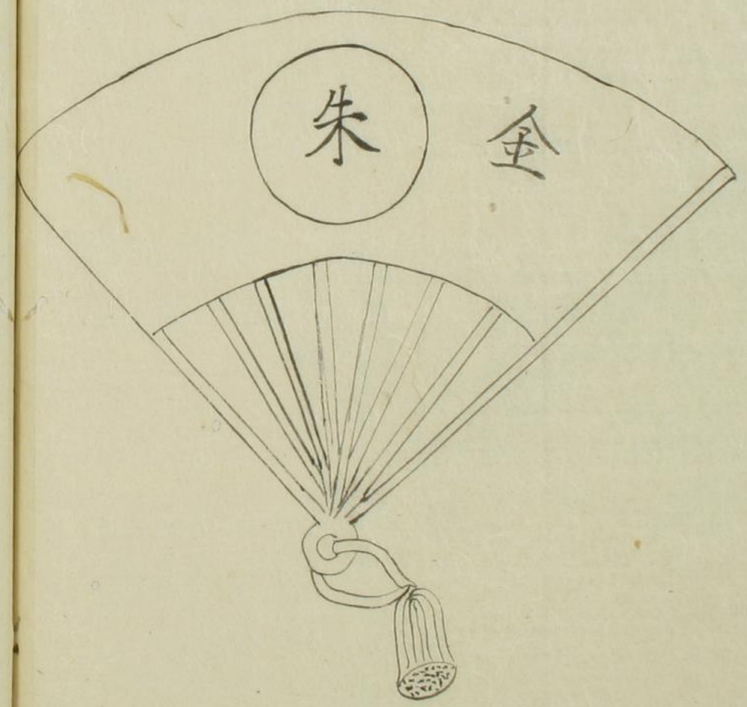


扇子之圖



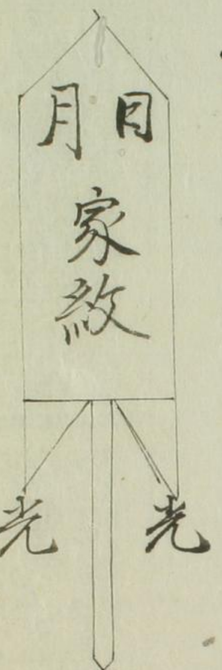
扇子絵之事





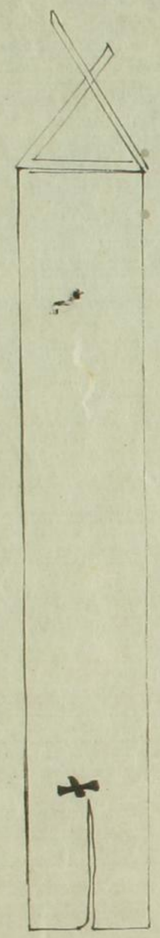
一旗可仕立仕法之事

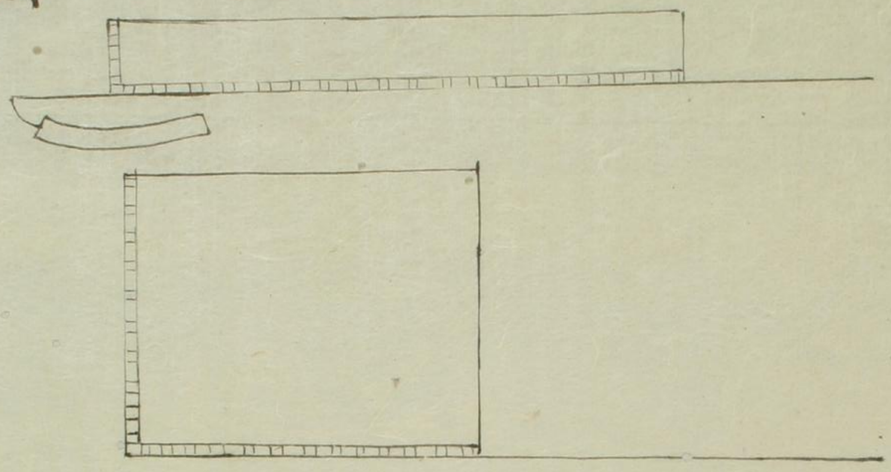
旗之図



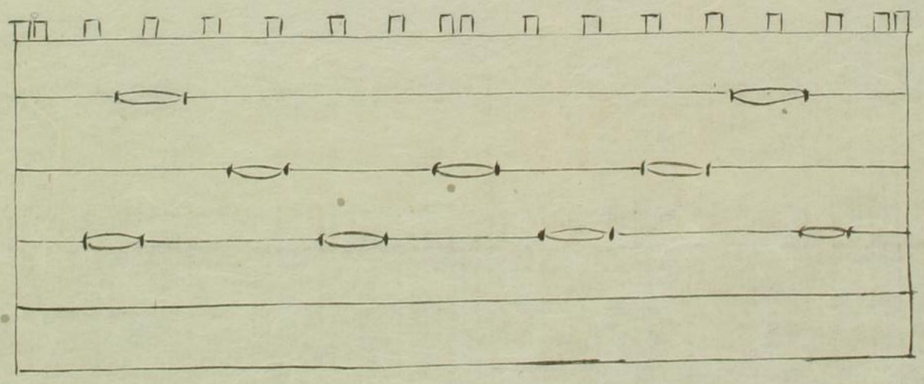
光長七尺或五尺或八尺寸法

旗之図

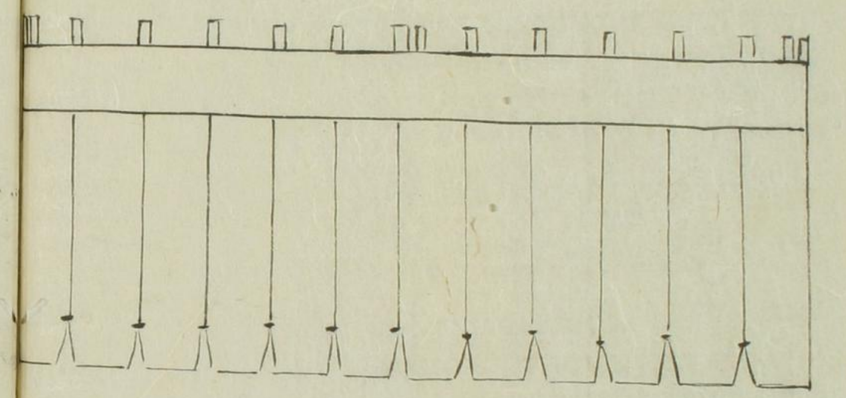




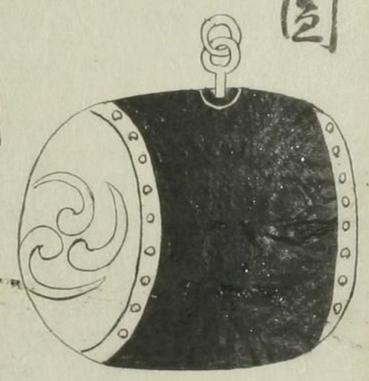
幕之図



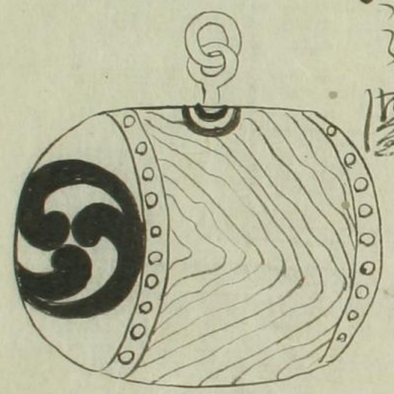
内幕之図

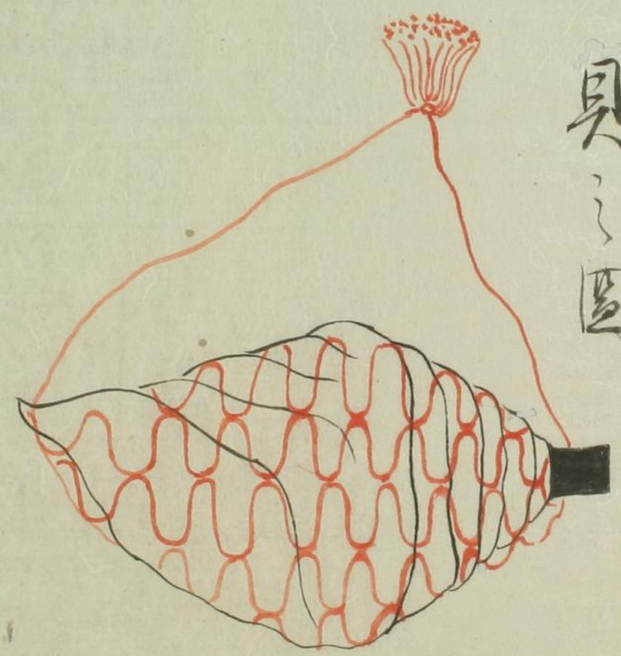


旗竿之先鼓之図



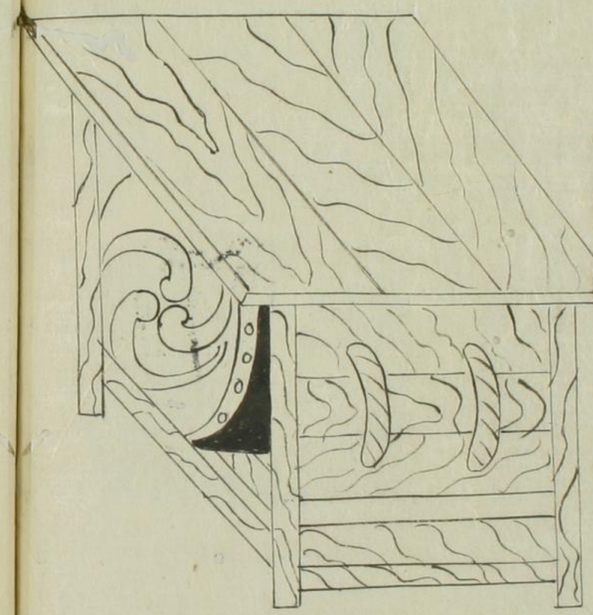
纐纈之先鼓之図





貝〻圖

古敷〻家〻圖

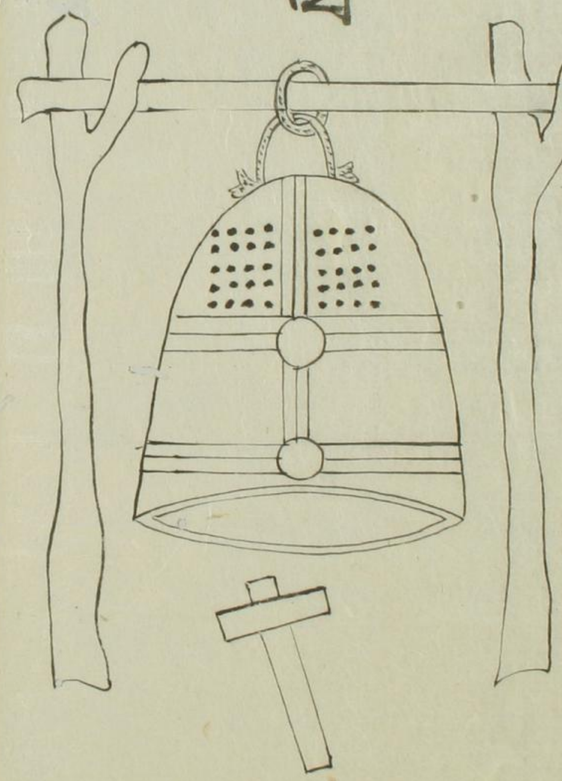


面洗ものし家ふ入るも

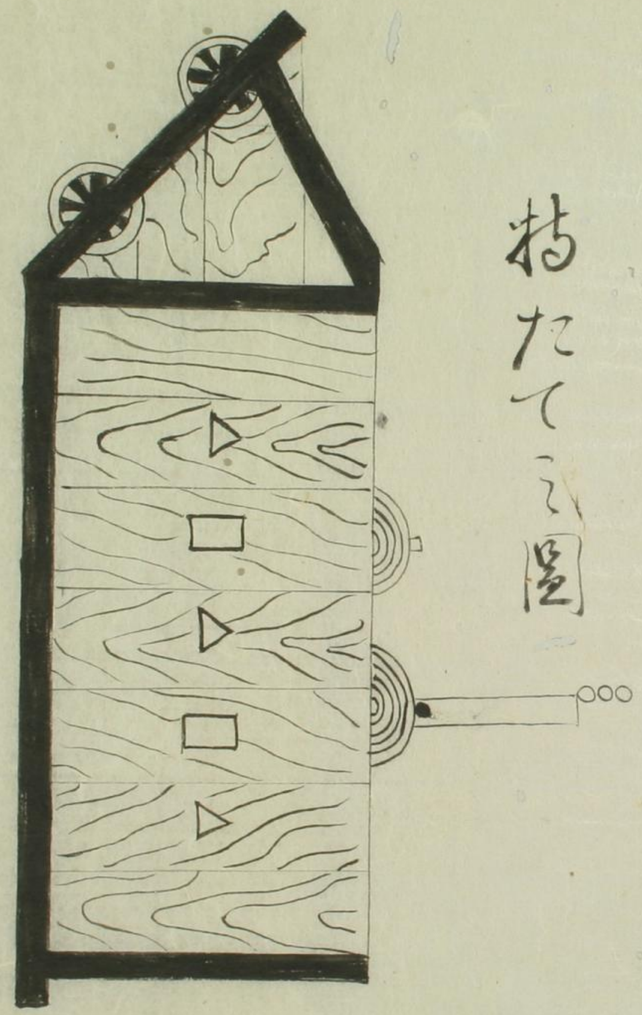
一鐘之事

別ふなしなり常鐘代用なり

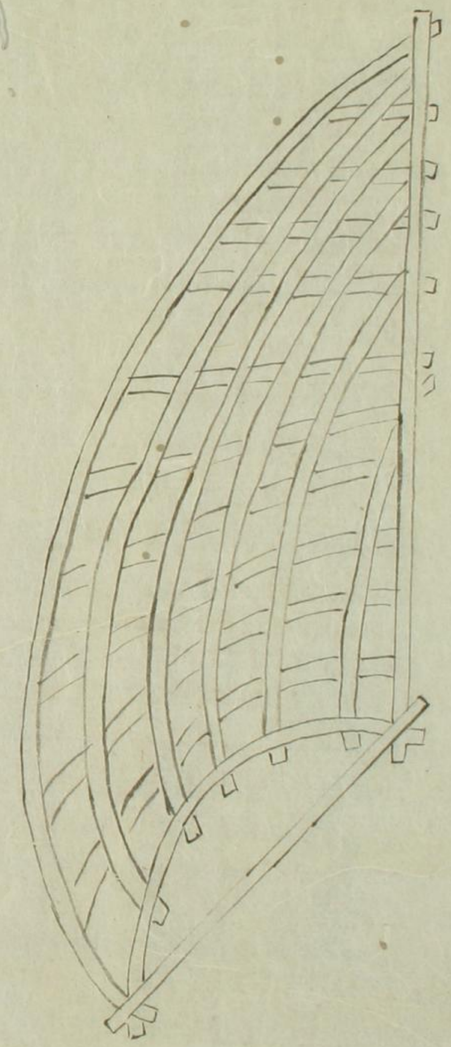
鐘之図



拍たてこ図

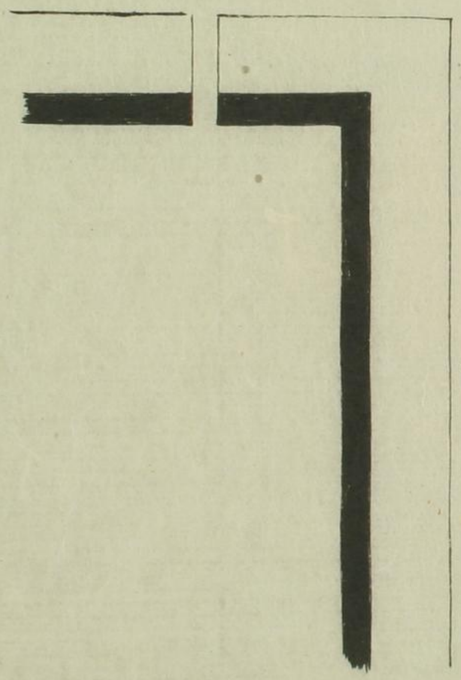


かくのごとの圖



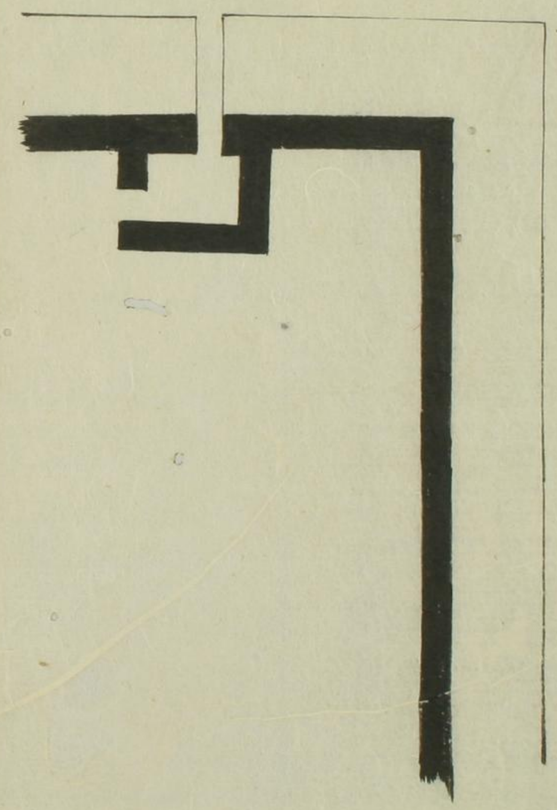
一 大隂乃虎口乃事

大隂の虎口乃図

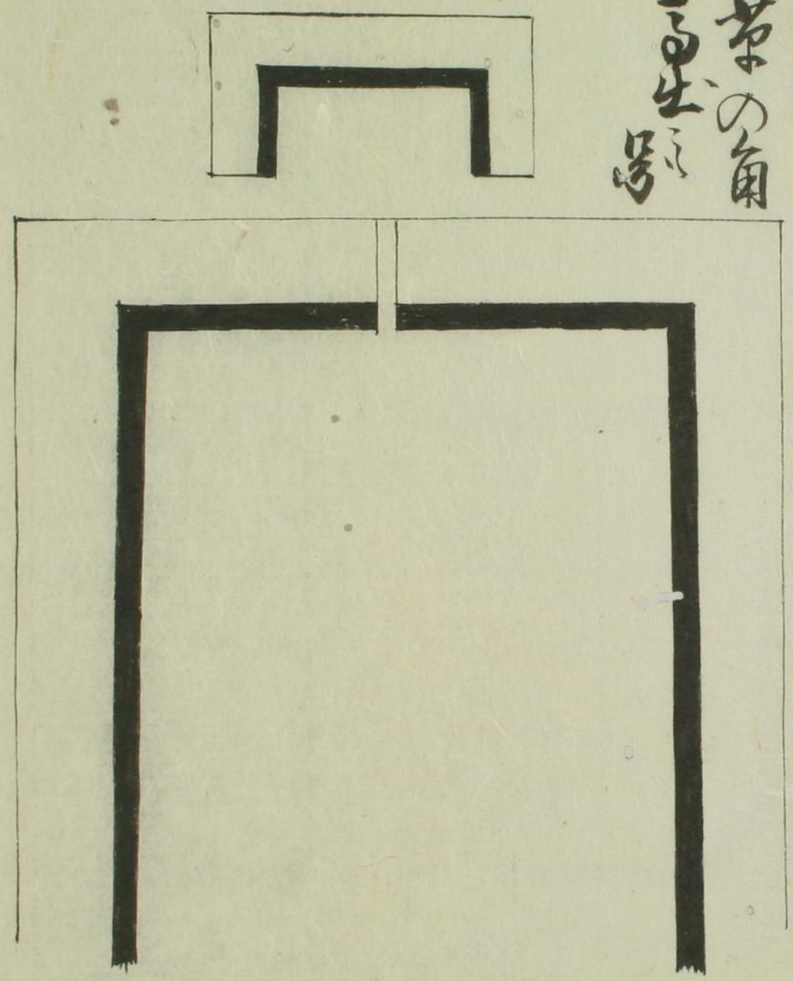


一 内外形之事

内外形乃号

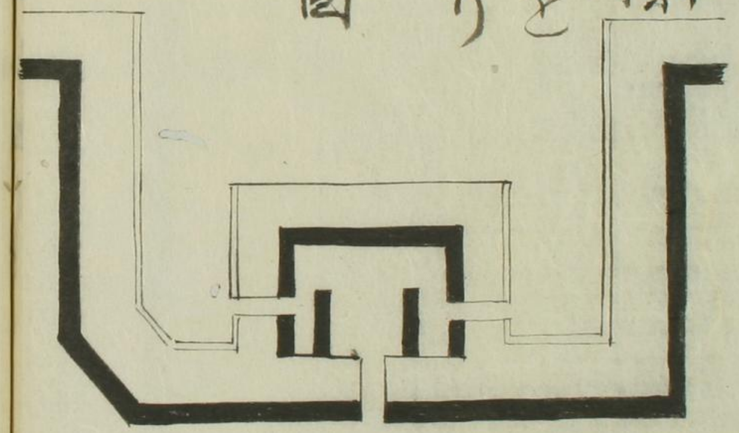


内外形之内外共に角

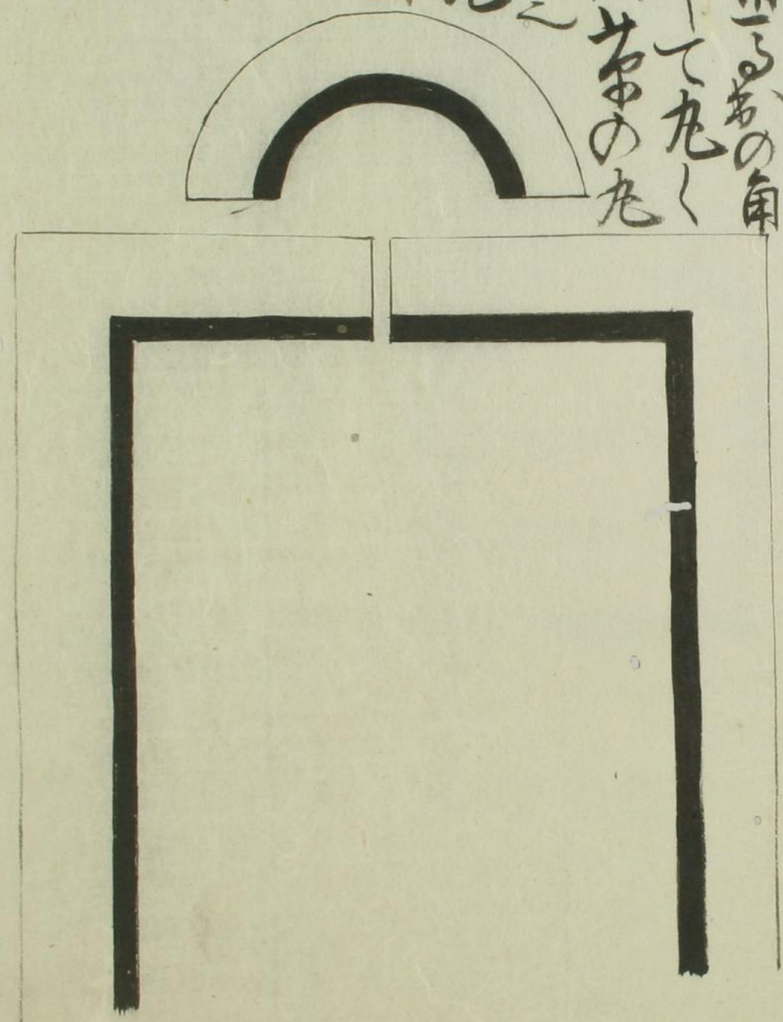


一真の角馬出と事きの石出と云大横郭と取三の門を立所三郭をとる〳〵是をきの角石出と云なり

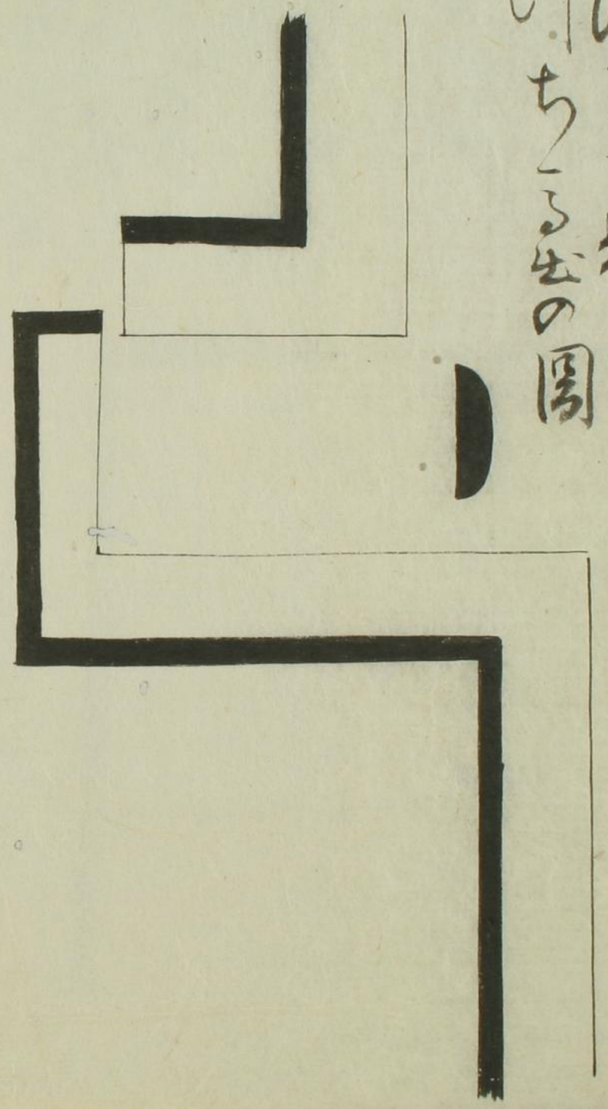
真乃馬出九図



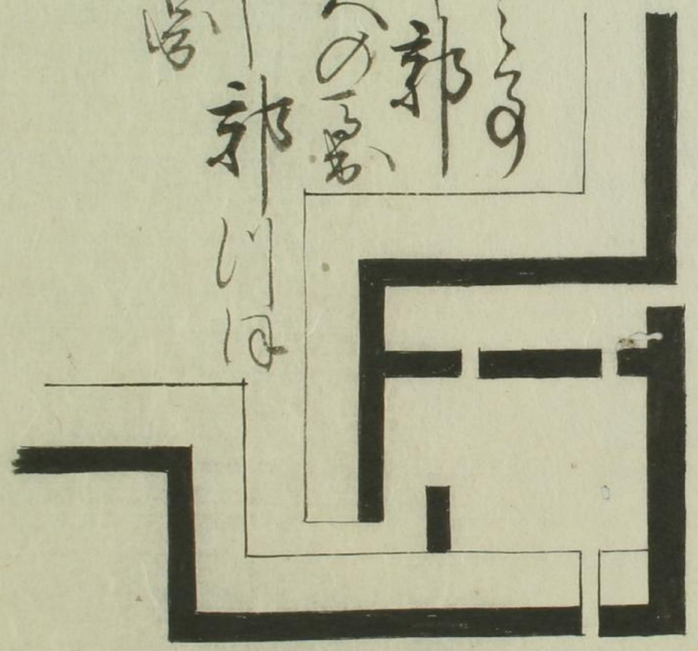
一草九龍石の角石の角をたとして九龍取る為に石の龍石の龍草九龍石の図



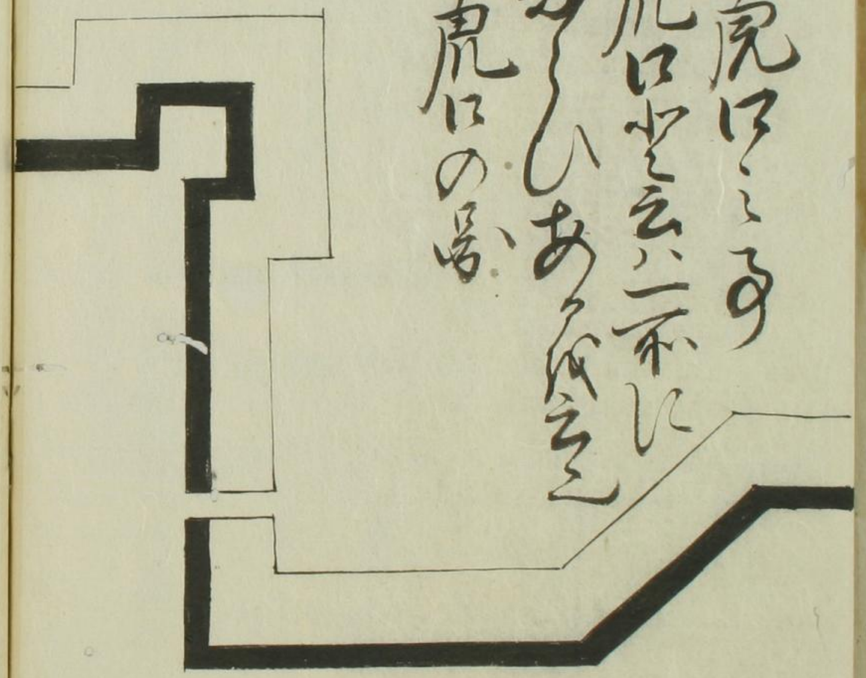
一あいちゝ巻こゝゝ
あいちゝ玉の図



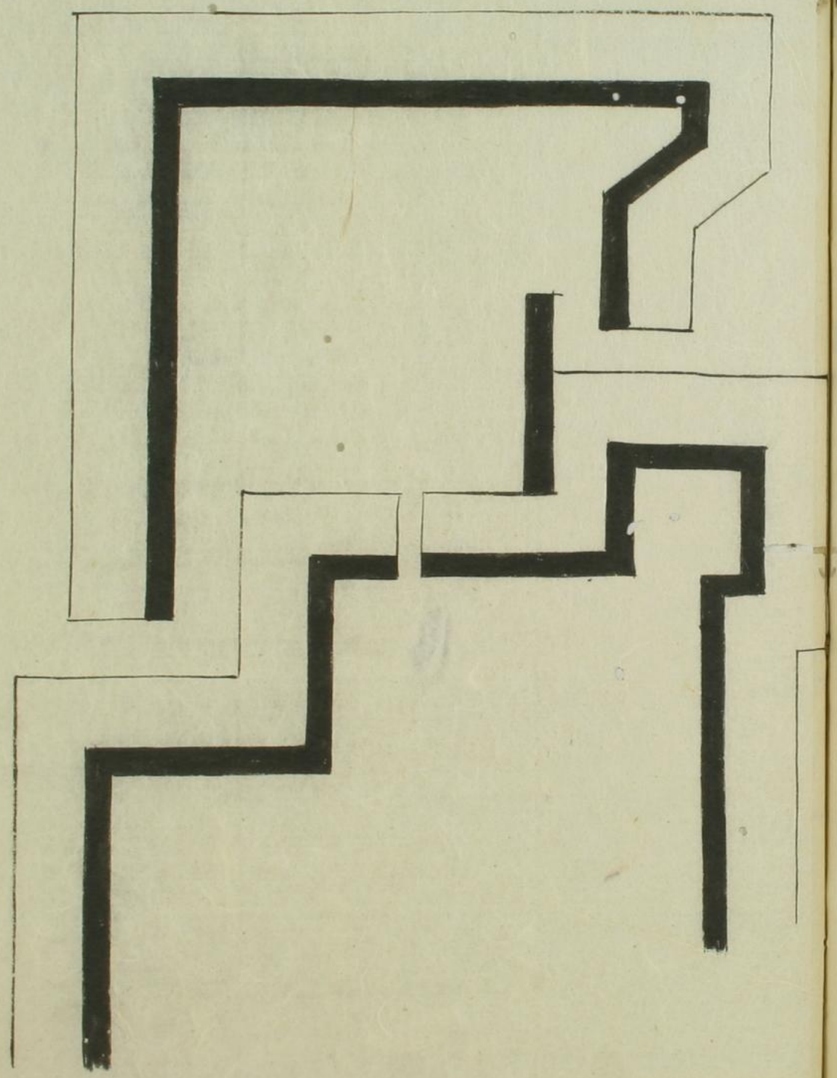
一曲尺の長さゝゝ
分かゝゝ 郭
い図の曲尺の巻
分ゝゝゝ 郭い図
乃外に於こゝ巻



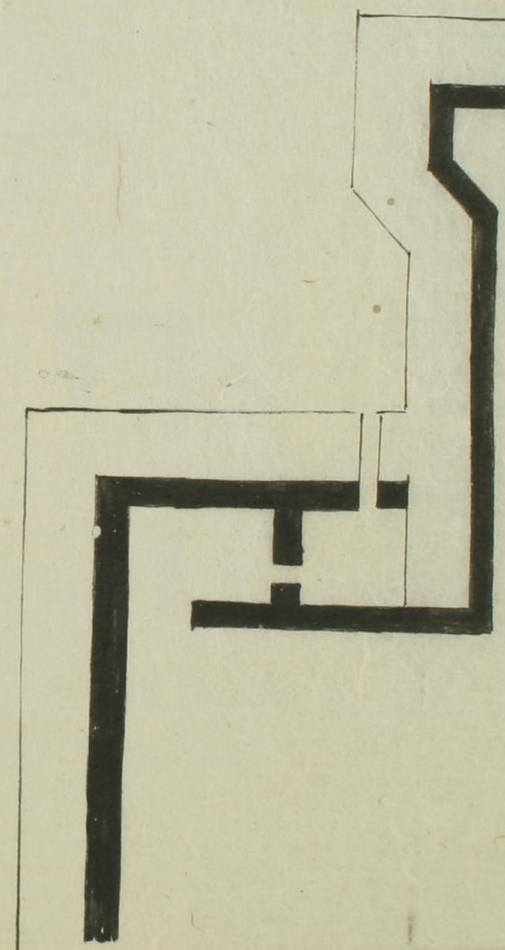
一なるゝ虎口ゝ
ゝ
ゝ虎口也と云ハ一ツ
虎口ニ門ゝゝゝあるを
云ゝゝ虎口の号

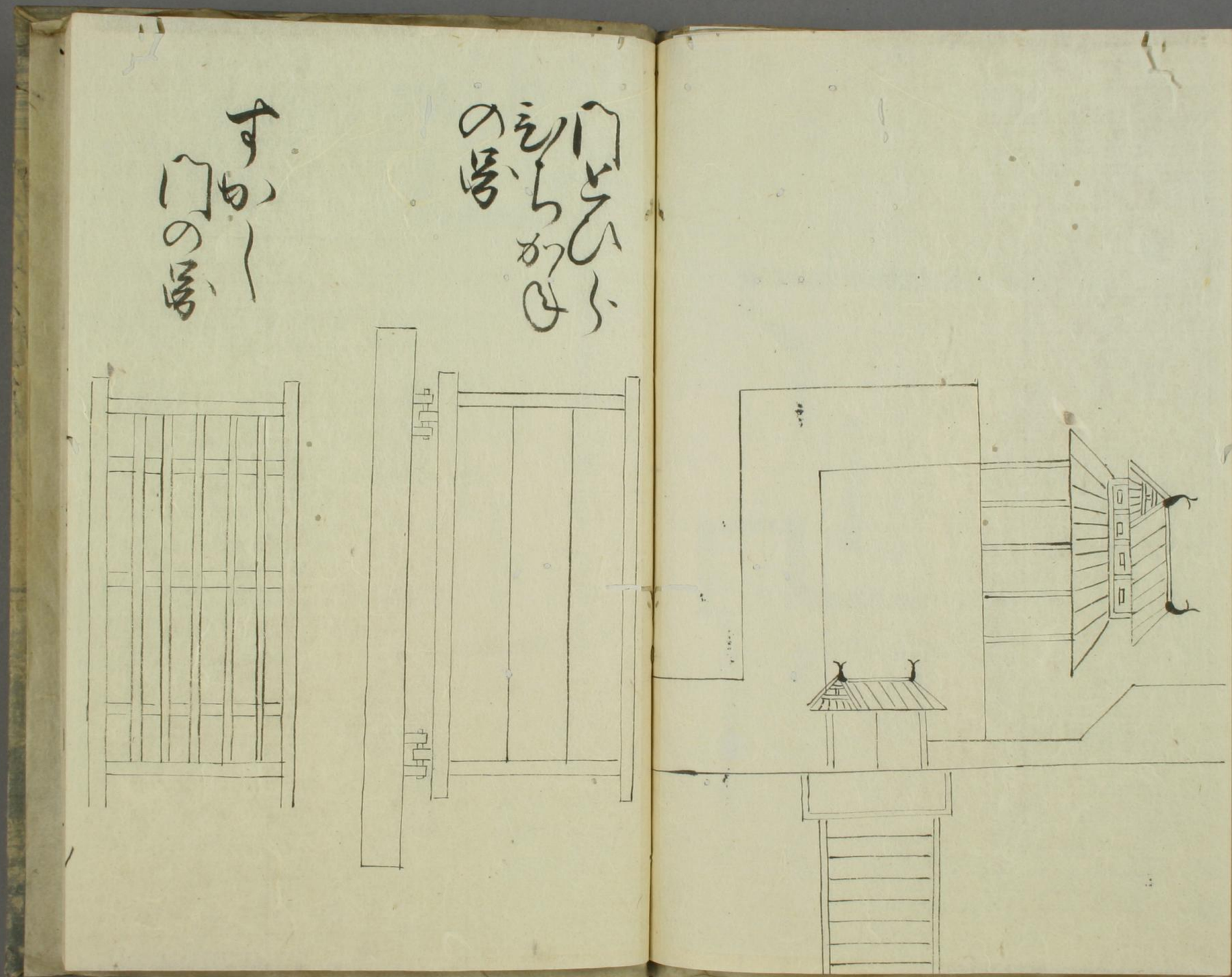


一塩の虎口の事
塩乃虎口と云ハ伏兵
備ふを伏兵ゝゝ
きと之を敵のよせ来りて攻
ハ入ゝきを敵と塩の虎口と云



人数分けして荒城と形て運を
ゑ〳〵つき城の扇子
陰の扇い
の号



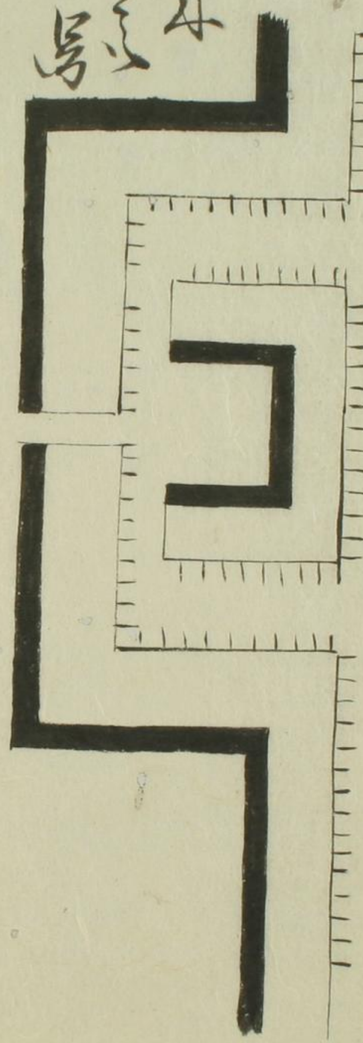

門どひふ
をちらかつ
の図
すかし
門の図

一柵の丈二尺五寸

一ちやくしき有のる

二ちくしゝ之記有べる

柵

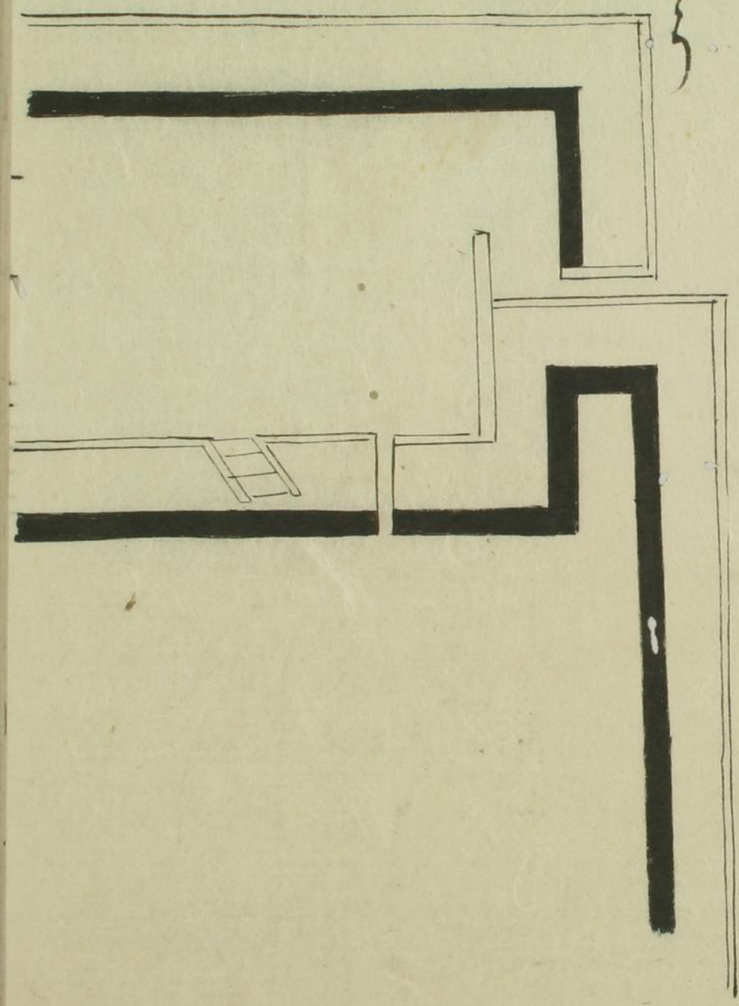


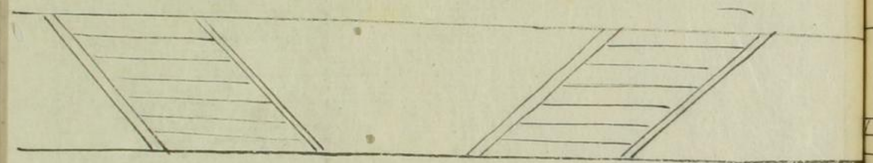
一ち初ちゝちゝ四ヶ所のる

ちりとゝ

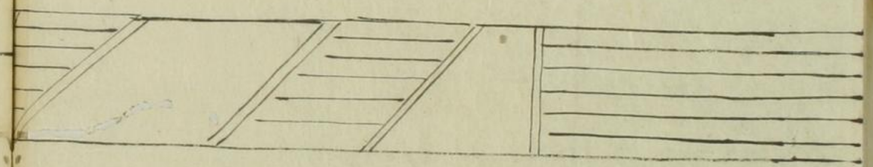
ちゝふ

ちの号



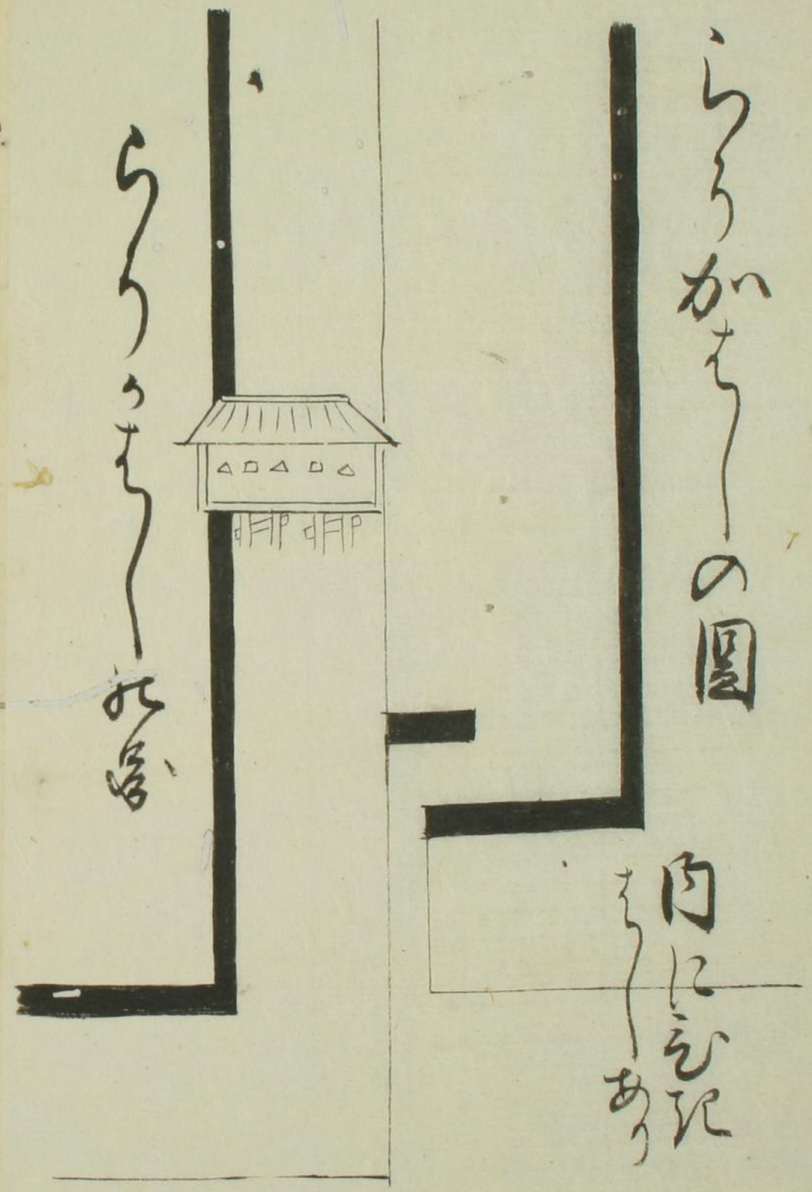


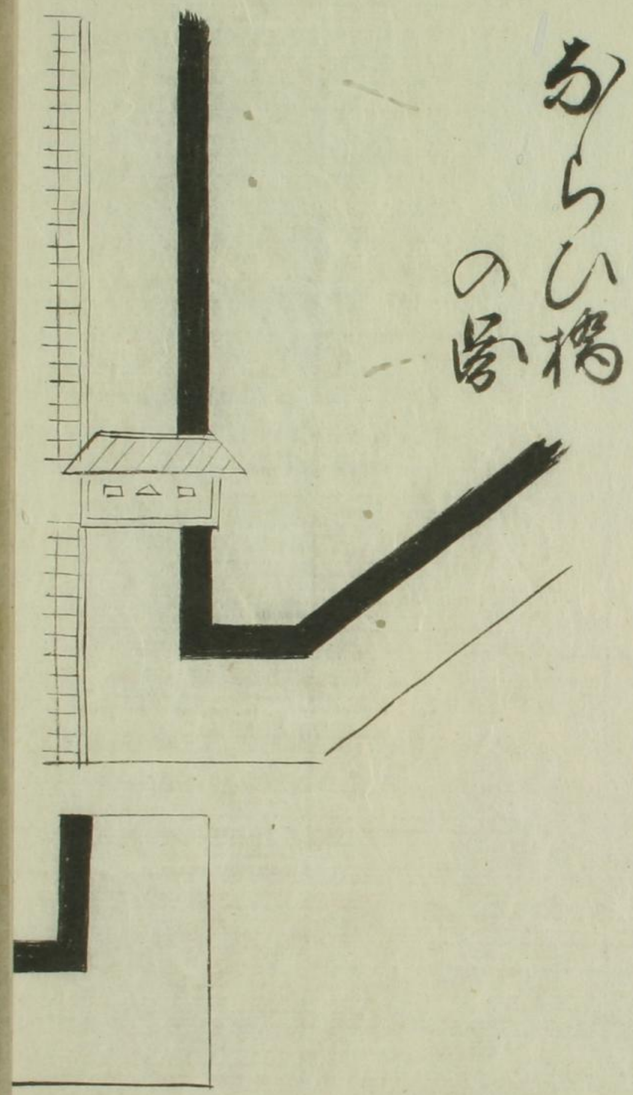
桐板



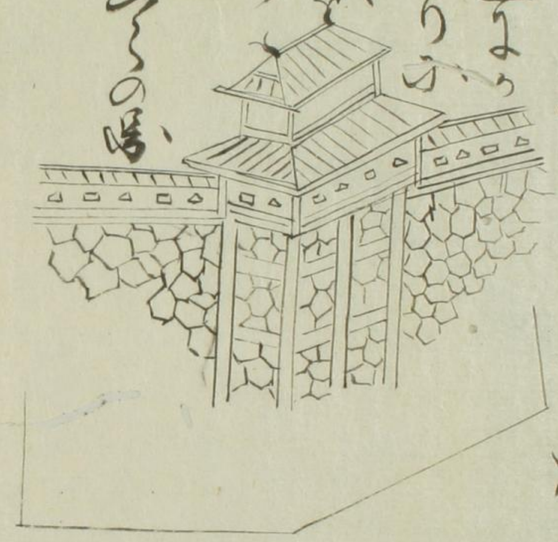
京板

かつらき

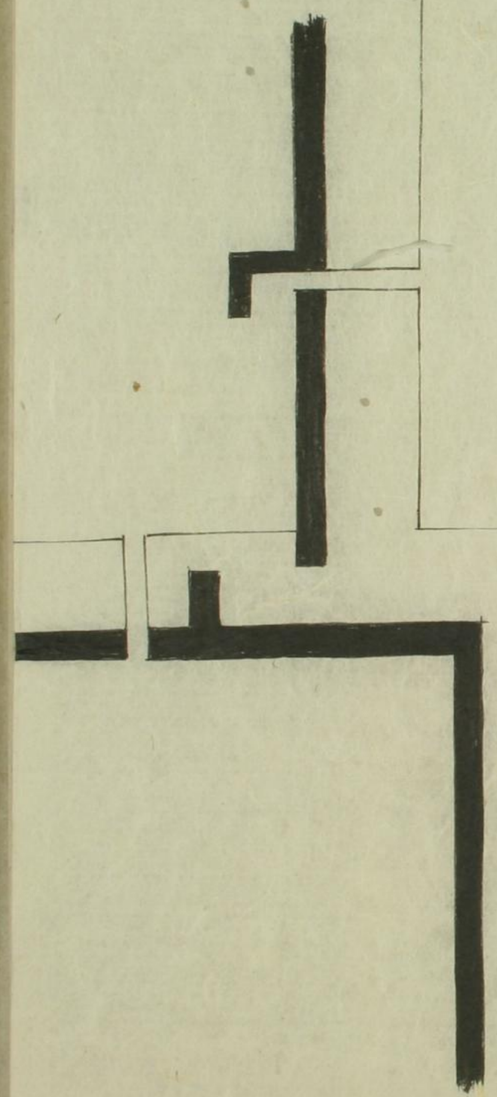

らうかもの圖
内に元記
あり
らうかもの北の

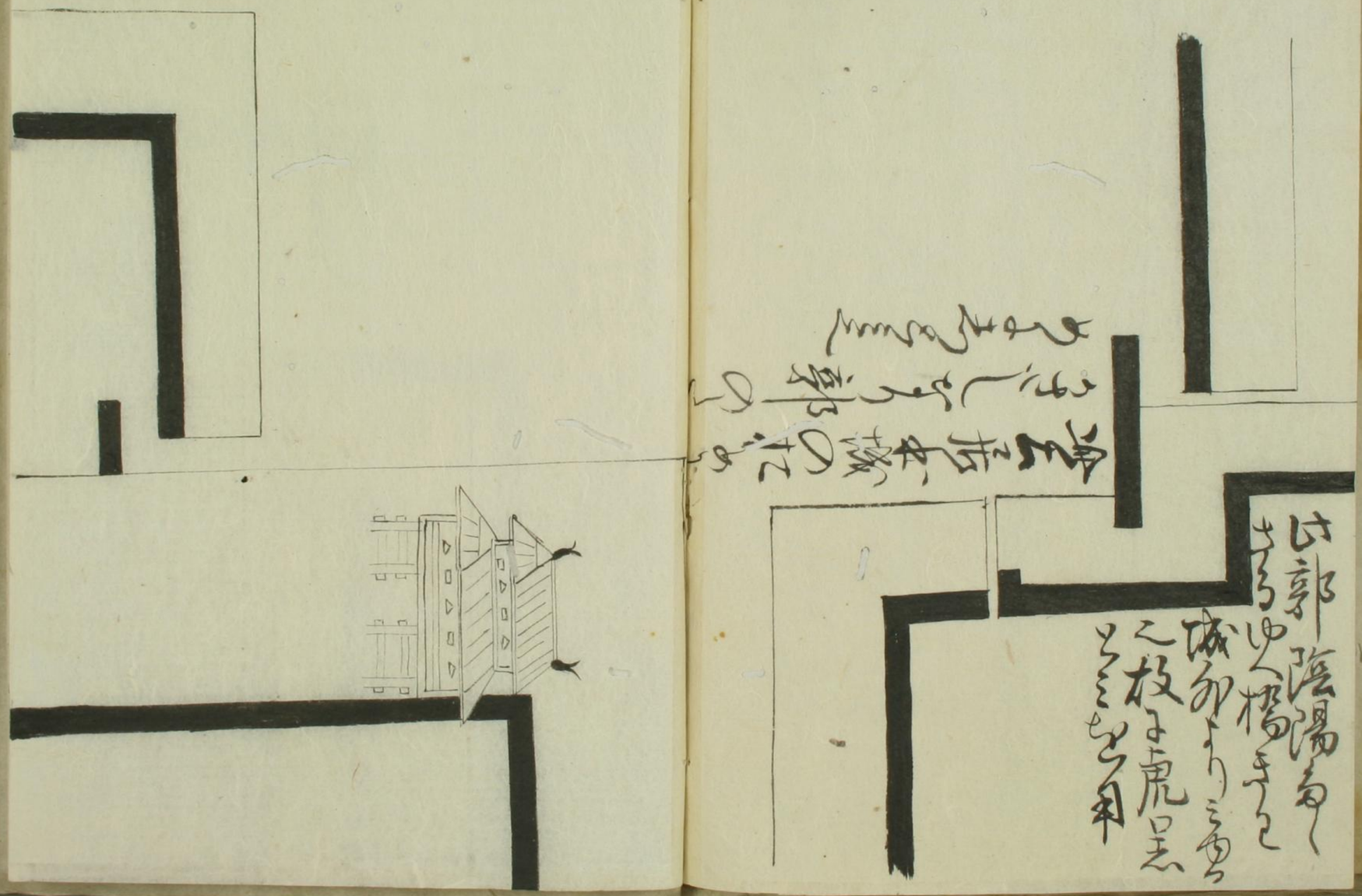

からひ橋
の図

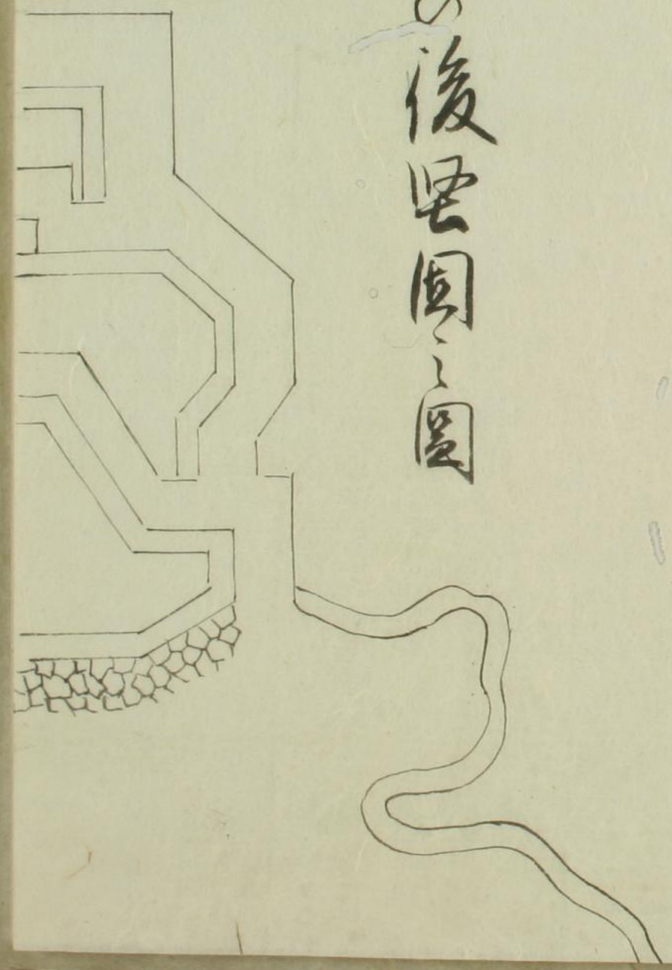
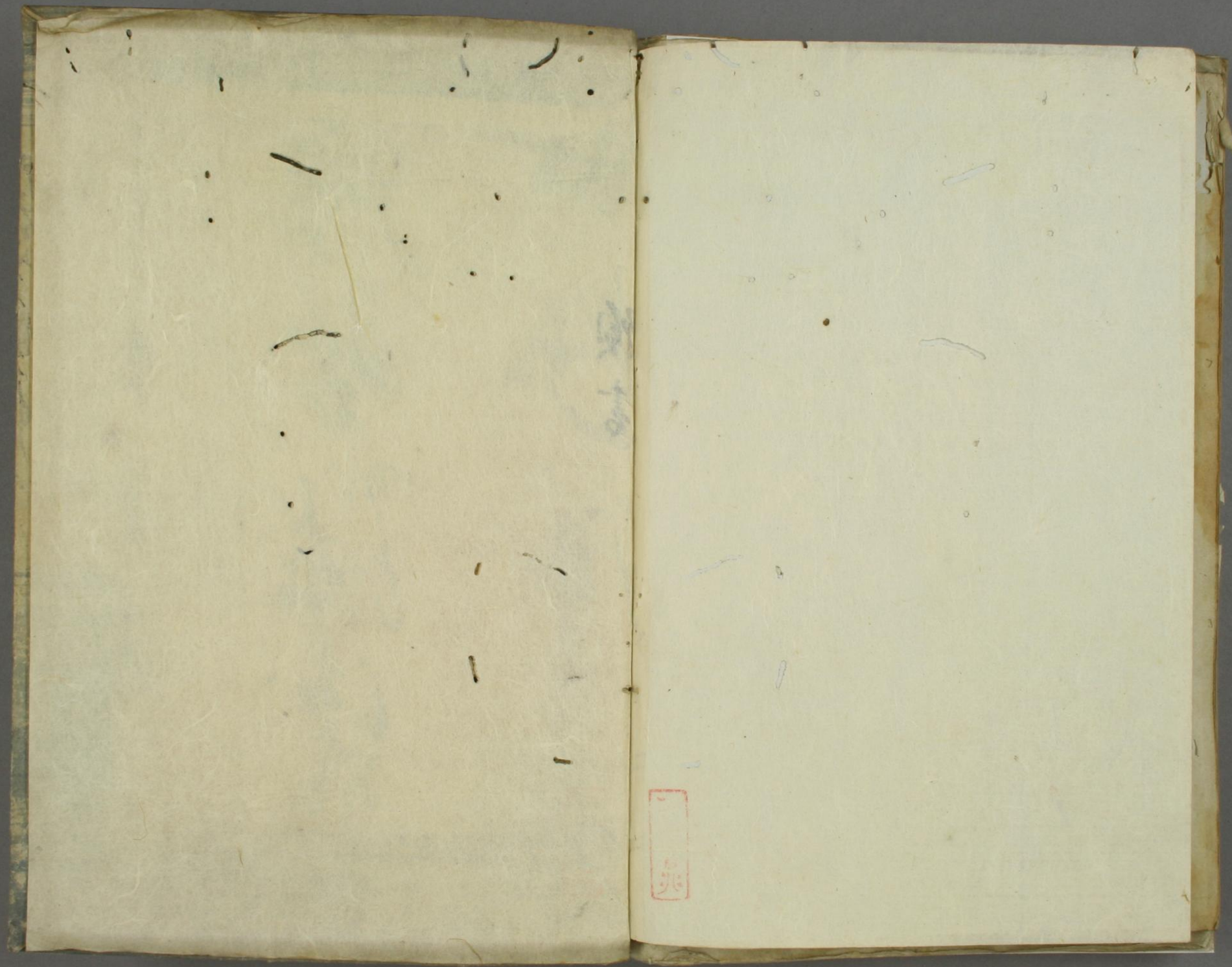
一水屋くくくくる
水屋くくくを云くくく橋
に城の上より
手洗くくふ
りくくく
云くり
水屋くくの時



一屋くくくを云八仲形とくん侍くくる
八方七方 六方十方 四方三方 正面くくる







城の後園之圖